

シダ植物ヒカゲノカズラ科

# ミズスギ

*Lycopodium cernuum* L.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

県内では生育地・個体数とも少ない。

**【概要】**

匍匐する茎は長く這い、ところどころで直立した茎を出す。直立茎は分枝して樹木状になる。小枝の葉は線状披針形で全縁。胞子囊穂は小枝の先に1-2個頂生し、卵形で長さ3-10mm、径2.5-3mm下向きにつく。

本州(伊豆諸島・伊豆半島・東海地方以西の暖地)・四国・九州・南西諸島・小笠原に生育し、石川・富山・長野・神奈川・東北・北海道でも限られた場所に生育する。世

界の熱帯・亜熱帯に分布する。やや湿った向陽の地に生じる。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県西部では産地・個体数とも若干多いが、東部の分布は限られており、隠岐諸島での分布は知られていない。池の土手や明るい斜面などに生育するのが知られている。

**【存在を脅かす原因】**

遷移。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎			○						○					○							

シダ植物ハナヤスリ科

# ナツノハナワラビ

*Botrychium virginianum* (L.) Sw.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

県下では個体数が少ない。

**【概要】**

山地林下に生じる夏緑性のシダで、葉は高さ25-75cm、担葉体の長さは15-35cmで、ふつう葉の高さの半分をこえ、ほとんど無毛。栄養葉は無柄で3-4羽状に細裂し、広い五角形状で基部は切形からやや心形。胞子穂は3-4回羽状に分岐する。北海道から九州北部までの各地に生育し、国外では北半球の温帯から暖帯にかけてと、中南米に分布する。

**【県内での生育地域・生育環境】**

各地に産地が点在する。やや陰湿な山地の林床に生育する。

**【存在を脅かす原因】**

遷移、採集。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○		○																	

シダ植物コバノイシカグマ科

# イシカグマ

*Microlepia strigosa* (Thunb.) Presl

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：分布限界種 (北限)

環境省：－

**【選定理由】**

個体数が少なく、日本海側での分布の北限となる。

**【概要】**

常緑性で、根茎は長く匍匐し、葉柄は密に毛をつける。葉は2回羽状複生でかための黄緑色をしている。胞子囊群は小葉の辺縁近くにつく。本州(千葉県南部・伊豆諸島・伊豆半島から西にかけての海岸沿い)・四国・九州・南西諸島・小笠原で、国外ではヒマラヤ・スリランカからポリネシアにかけての旧世界の熱帯・亜熱帯に広く分布する。

**【県内での生育地域・生育環境】**

各地に点々と分布し、日本海側での北限となる。西部では生育地が点在するが、東部ではきわめてまれであり、隠岐諸島の分布は知られていない。海岸近くのやや乾燥した斜面や林床に生育する。

**【存在を脅かす原因】**

遷移。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	◎	○						○					○					○			

シダ植物コバノイシカグマ科

# オオフジシダ

*Monachosorum flagellare* (Maxim.ex Makino) Hayata

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

県内では自生地・個体数ともに少ない。

**【概要】**

地上生または岩上生の常緑のシダで、根茎は短く斜上し、葉は三角状広披針形で葉は薄く、鮮緑色、2-3回羽状複生する。胞子嚢群は裂片の辺縁からすこし内側に寄ってつく。本州（栃木県および中部地方以西）・四国・九州で暖地の林下に生じる。国外では中国に分布する。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県西部の山地の陰湿な林下に若干の生育地が見られ

る。

**【存在を脅かす原因】**

森林伐採、遷移。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎		○				○													

シダ植物シノブ科

# シノブ

*Davallia mariesii* Moore ex Baker

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵 14

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

県下では個体数も少なく、採集等で激減している。

**【概要】**

夏緑性で根茎は岩上や樹幹上を長く這って、線状披針形の鱗片が根茎に密につく。葉はまばらにつき、3-4回羽状に細裂する。胞子嚢群は裂片に1個つく。

北海道から南西諸島の山地に生育し、朝鮮半島南部・中国・台湾に分布する。シノブ玉として鑑賞され、各地で採集され、個体数が減少している。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内各地の樹幹や岩上に生育するが、採集や遷移などにより減少している。

**【存在を脅かす原因】**

採集、遷移。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	○	○	◎	○				○					○								

シダ目ミズワラビ科

# ミズワラビ

*Ceratopteris thalictroides* (L.) Brongn.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

除草剤による影響のほか、近年では県内各地の圃場整備による乾田化及び放棄水田の遷移によって生育場所が減少。

**【概要】**

本州、四国、九州の水田や池沼などの浅水中に生育する1年生の水生シダ植物。葉には栄養葉（裸葉）と胞子葉（実葉）の2型があり、栄養葉は淡緑色の柔らかい草質で数回羽状に切れ込み、胞子葉は栄養葉よりも硬く、裂片は細長い（幅1-2mm）。胞子のうは葉の裏面の葉

脈上に並んで付き、反転した葉で包まれる。胞子による増殖のほか、栄養葉に生じる無性芽（不定芽）によって無性的に増える。全国的に分布域が減少している水草のひとつである。

**【県内での生育地域・生育環境】**

水田及びその周辺の畦・水路など。

**【存続を脅かす原因】**

除草剤による影響及び圃場整備による乾田化と水路のコンクリート化。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	△							○					○						

シダ植物シシラン科

# シシラン

*Vittaria flexuosa* Fee

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

産地・個体数ともに少ない。国内での自生の北限を構成している。

**【概要】**

常緑性で、根茎は短く匍匐し、葉を密につけ、葉は革質、線状で長さ15-45cm、幅4-8mm程度である。孢子囊群は辺縁に近い葉裏の溝に生じる。関東地方以西から琉球にかけての暖地の山林中の岩上や樹幹に着生する。国外では朝鮮半島・ヒマラヤからマレーシアにかけて分布する。

**【県内での生育地域・生育環境】**

西部に産地が多く、東部には非常に少ない。隠岐諸島では記録はあるが、現状は不明である。山地の林下の岩に群生して着生している。

**【存在を脅かす原因】**

森林伐採、土砂の堆積、採集。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	○	○	◎	○				○													

シダ植物イノモトソウ科

# ナチシダ

*Pteris wallichiana* Ag.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：分布限界種 (北限)

環境省：－

**【選定理由】**

個体数・生育地共に少なく、国内での分布の北限を形成している。

**【概要】**

根茎は短く、葉柄は1mに達し、葉身は基部で3つに分かれ、側枝は後ろ側に短い枝を出して、五角形となる。2回羽状深裂する。裂辺は線状披針形でやや鎌型になる。孢子囊群は葉裏の縁につく。本州 (千葉県以西の暖地)・四国・九州・南西諸島の山地の陰湿な林床に生じる。国外ではアジアの熱帯・亜熱帯に広く分布する。

**【県内での生育地域・生育環境】**

生育地は点在しており、総個体数は多くない。近年、隠岐諸島にも自生が確認された。県内の産地は国内での分布の北限である。南方では常緑性であるが、県内では冬季に地上部が枯死する。

**【存在を脅かす原因】**

森林伐採、遷移。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	◎	◎	◎	○				○													

シダ植物チャセンシダ科

# ホウビシダ

*Asplenium hondoense* Murakami et Hatanaka

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

県内では個体数が少なく、国内での分布の北限を形成している。

**【概要】**

常緑性の小型のシダで、根茎は長くのび、葉軸は赤褐色から黒褐色で光沢がある。葉は単羽状で披針形から長楕円状披針形。孢子囊群は裂片の中肋近くにつく。本州 (石川県・千葉県以西)・四国・九州で溪流近くの湿った岩上に生じる。国外では韓国(済州島)と中国に分布する。

**【県内での生育地域・生育環境】**

西部には点々と産地が知られるが、東部での分布は非常にまれである。隠岐諸島の分布は知られていない。

**【存在を脅かす原因】**

森林伐採、土砂の堆積。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	◎	○		○				○													

シダ植物チャセンシダ科

# コバノヒノキシダ

*Asplenium sarelii* Hook.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

生育地・個体数ともに少ない。

**【概要】**

常緑性の小型のシダであり、葉を叢生する。葉身は2-3回羽状複生し、広披針形から長楕円形で、下部の羽片がやや短くなる。胞子嚢群は裂片に1-3個互いに接近してつく。本州（東北地方南部以西）・四国・九州で明るい山野や路傍の岩上や石垣上に生じる。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内数カ所の岩上に少数生育しているのが知られている。

。コンクリート崖の生育も知られ、本来の自生なのか疑われる場所もある。

**【存在を脅かす原因】**

土壌堆積、遷移、採集。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
◎			◎										○										

シダ植物チャセンシダ科

# クルマシダ

*Asplenium wrightii* Eaton ex Hook.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

生育地が少なく、国内での分布の北限を形成している。

**【概要】**

常緑性で根茎は斜上し、葉を叢生する。葉身は単羽状複生で広披針形、濃緑色。葉質は厚く、軟らかい。羽片は10-20対で披針形でやや鎌状になる。胞子嚢は線形で長い。本州（伊豆半島・東海以西）・四国・九州に分布し、山林中の比較的湿った地上やまれに岩上に生じる。国外では、朝鮮半島・台湾・中国・インドシナとフィリピンに産する。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県西部に数カ所群生地が知られている。林下の土壌のやや堆積した湿った斜面に生育する。

**【存在を脅かす原因】**

森林伐採。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
		◎		○				○														

シダ植物シシガシラ科

# オオカグマ

*Woodwardia japonica* (L.fil.) Sm.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：分布限界種 (北限)

環境省：－

**【選定理由】**

産地が限られ、国内での分布の北限を形成している。

**【概要】**

常緑性で、根茎は太く、斜上から横走し、葉を叢生する。葉身は狭長楕円形から卵状披針形で2回羽状中裂する。胞子嚢は羽片の裂片の中肋に沿って並ぶ。紀伊半島から中国地方西部・四国・九州の平地から低山地のやや乾燥した林下に生じる。国外では韓国（済州島）・台湾・中国・ビルマ・インドシナに分布する。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県西部にいくつかの産地が知られており、低地のやや乾燥した林下に生育している。

**【存在を脅かす原因】**

森林伐採。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
		◎						○					○					○				

シダ植物オシダ科

# シノブカグマ

*Arachniodes mutica* (Fr.et Sav.) Ohwi

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

県下では個体数が非常に少なく、分布の南限を構成する。

**【概要】**

常緑性のシダ植物で、根茎は短く、葉を叢生する。葉柄は短く、長さ15-35cm、淡褐色から黒褐色の鱗片を密につける。葉身は卵状長楕円形で長さ40-60cm、幅15-25cm、3回羽状全裂～中裂すし、表は濃い緑色で、裏面はやや白っぽい緑色。小羽片は長楕円形、2-3.5cm、幅7-12mmで羽状に深裂する。胞子嚢群は上部からつき、

包膜は円腎形。北海道・本州・四国の山林中に産する。国外では朝鮮半島とロシア東部に分布する。

**【県内での生育地域・生育環境】**

中国山地の山陽側では点々と知られているが、島根県側では西部では報告があるが、東部では確実な生育の報告はない。

**【存在を脅かす原因】**

森林伐採。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎		○																	

シダ植物オシダ科

# ハチジョウベニシダ

*Dryopteris caudipinna* Nakai

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

低地の社寺林などの森林がよく保存された環境に残存する植物で、そのような環境はあまり残されていないことから、生育地が少なく、希少な植物である。

**【概要】**

ベニシダに似た常緑のシダで、小羽片が線状披針形から線形で細く、多少鎌状に曲がる。胞子嚢群は小型でやや密生してつく。ベニシダは3倍体無融合生殖であるが、ハチジョウベニシダは二倍体有性生殖種である。神奈川県南部・伊豆半島・伊豆諸島に知られていたが、九州南

部に知られ、島根県に分布することが気づかれてから、日本海側での自生が注意されるようになった。現在は山口県から福井県まで分布が知られている。

**【県内での生育地域・生育環境】**

隠岐諸島や東部においては各地に生育が知られている。西部での分布については形態的に可能性のあるものがあつたが、精査されていない。生育地は低地の保存状態のよい社寺林などの照葉樹林下に生育している。

**【存在を脅かす原因】**

森林伐採・下草刈り。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	◎		○					○					○								

シダ植物イワテンダ科

# ウスヒメワラビ

*Acystopteris japonica* (Luerss.) Nakai

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

県内では個体数が少ない。

**【概要】**

夏緑性のシダで根茎は横に伸び、先端から葉を叢生する。葉身は三角状卵形で3回羽状に複生し、薄い草質である。葉柄や葉軸が暗褐色から紫褐色であることが特徴で、淡褐色の鱗片をまばらにつける。胞子嚢群は裂片の辺縁近くにつく。

東北地方南部から屋久島までの山地の森林中の地上に生じる。国外では台湾から中国南西部に分布する。

**【県内での生育地域・生育環境】**

隠岐諸島を除き、各地に生育地が点在しているが、個体数は多くない。比較的西部で多く見られる。山地の湿度の高い杉林などの林床で見られる。

**【存在を脅かす原因】**

森林伐採。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	◎	◎		○				○													

シダ植物イワテンド科

# ミヤコイヌワラビ

*Athyrium frangulum* Tagawa

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：-

環境省：-

**【選定理由】**

産地・個体数ともに多くない。

**【概要】**

夏緑性で、全体にみずみずしい印象をうける。根茎は直立し、葉を叢生する。葉柄は緑色またはやや紫かかり、葉身は卵形から楕円形で3回羽状に複生する。羽辺は斜めにつき、柄が長い。胞子嚢群は中肋近くにつき、鉤形のものが多い。本州（関東地方以西）・四国・九州に分布し、山地の川沿いの多湿な林床に生じる。

**【県内での生育地域・生育環境】**

産地は県西部の山地に限られ、川沿いの杉林林床などの陰湿な地に点々と確認される。県下では生育時、葉の軸が緑色のものがほとんどである。

**【存在を脅かす原因】**

森林伐採。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎		○																	

シダ植物イワテンド科

# ハコネシケチシダ

*Cornopteris christenseniana* (Koidz.) Tagawa

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵 14

島根県固有評価：-

環境省：-

**【選定理由】**

産地が少なく、とても希少である。

**【概要】**

夏緑性で根茎は這う。葉柄は淡緑色でわずかに赤紫色を帯びる。葉身は三角状から楕円形で3回羽状深裂する。裂片は長楕円形胞子嚢群は長楕円形から線形で、裂片の中肋と辺縁の中間生。本州・四国・九州に点在し、山地の湿った林中の林床に生じる。

**【県内での生育地域・生育環境】**

東部の山中に産地が知られており、やや群生している。

**【存在を脅かす原因】**

森林伐採。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎				○																	

シダ植物イワテンド科

# ムクゲシケシダ

*Deparia kiusiana* (Koidz.) M.Kato

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：-

環境省：-

**【選定理由】**

産地・個体数ともに少ない。

**【概要】**

夏緑性で根茎は地中に長く伸びる。葉は単羽状に深裂する。セイタカシケシダに似ているが、葉に鱗片と毛が密にあり、小羽片の先端は切形、包膜は扁平であることで区別される。本州(山形県および関東地方以西)・四国・九州に産する。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県東部・西部にわずかながら自生が知られる。スギ林

下の湿った環境に自生する。

**【存在を脅かす原因】**

森林の伐採、踏みつけ。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎				◎				○													

シダ植物ウラボシ科

# ヒメサジラン

*Loxogramme grammitoides* (Bak.)C.Chr.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

生育地に限られ、個体数も少ない。

### 【概要】

常緑性の小型のシダで、根茎は長く這う。葉は倒卵形で先端に近いところの幅が最大になり、暗緑色。孢子囊群は長楕円形から線形で葉の上半部で中肋に近く、ほぼ平行してつく。北海道から屋久島にかけて広く分布するが北ではまれのようなものである。深山の岩上に生じる。国外では朝鮮半島・台湾・中国に分布する。

### 【県内での生育地域・生育環境】

隠岐諸島を除く、県内各地に点在し、林中の岩上に生じる。

### 【存在を脅かす原因】

森林伐採・採集。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	◎	◎		○																	

シダ植物ホウライシダ科

# カラクサシダ

*Pleurosoriopsis makinoi* (Maxim.ex Makino)Fomin

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

産地・個体数ともに少ない。

### 【概要】

非常に小型のシダで、根茎は長く、コケの間を匍匐し、葉身は長さ1.5-7 cmの小型の葉をつける。両面は褐色の毛をつけ、深緑色。孢子囊群は裂片の裏面に広がる。北海道から九州にかけての各地で、山中の岩上や樹幹につき、湿ったコケの中にある。国外ではシベリア東部と中国・朝鮮半島に分布する。

### 【県内での生育地域・生育環境】

産地は県下の山中に点在して見られるが、特に西部のブナの樹幹では比較的多くみられる。隠岐諸島にも分布する。小型のシダで空中湿度の高い場所の岩上や樹幹にコケに混じって生育しているなのでその気になって探さないとなかなか確認できないシダである。

### 【存在を脅かす原因】

森林伐採。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	◎	○	◎	○				○													

シダ植物ウラボシ科

# アオネカズラ

*Polypodium niponicum* Mett.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵 14

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

生育地・個体数ともに少ない。

### 【概要】

夏に落葉する冬緑性のシダで、根茎は長く伸びる。葉身は広披針形から卵状長楕円形で側列片は15-25対あり、葉質は厚く、やわらかい。表はまばらに裏面はやや密に開出毛がある。孢子囊群は中肋近くにつき大きい。本州（富山県・関東地方西部以西）・四国・九州で低山地の樹幹や岩上に着生し、暖地に多い。国外では中国南部に分布する。

### 【県内での生育地域・生育環境】

全域の低山地の樹幹や岩上に着生しているのが知られるが、東部・隠岐諸島では非常にまれである。特徴的な姿から観賞用に採集される場合も多いと考えられる。

### 【存在を脅かす原因】

採集。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	○	○	◎	○																	

維管束植物

絶滅 野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

シダ植物アカウキクサ科

# オオアカウキクサ

*Azolla japonica* Fr.et Sav.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧 I B類 (EN)

**【選定理由】**

各地で減少が著しい。

**【概要】**

小型の浮遊性の水生シダで、アカウキクサによく似ているが、やや大型になり、根毛は早落性で、葉の表面がほとんど平滑か、わずかに小突起がつく程度である。似たアカウキクサは根毛があり、密に小突起がつくので区別できる。秋に全体が赤色になり、冬は先端を残して枯れる。本州・四国・九州に分布し、日本固有種である。

**【県内での生育地域・生育環境】**

かつては、各地の田に生育していたが、水田除草剤の

影響で少なくなっている。また、近年、宍道湖の船溜りやこれに流入する河川などで早落性の根毛をもつ *Azolla* 属が見られる。これは根毛や植物体の形や大きさではオオアカウキクサに分類できるが、葉の表面に突起が密に見られるので、アメリカオオアカウキクサ (*Azolla caroliniana* Willd.) か、ニシノオオアカウキクサ (*Azolla filiculoides* Lam.) との雑種ではないかと推測される。

**【存在を脅かす原因】**

除草剤の使用。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○										○					○						

イチイ目イチイ科

# カヤ

*Torreya nucifera* (L.) Sieb. et Zucc.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も限られている。

**【概要】**

常緑針葉樹で高さ20m、径1m以上の大木になる樹種。樹皮は灰褐色～褐色で縦に裂け、薄皮が細長くはげる。葉は線形で長さ2-3cm、幅2-3mm、先端は鋭くとがり、硬い。雌雄異株とされ、花期は春で、種子は翌年の秋に熟れる。種子は緑色の仮種皮に包まれて、後に紫褐色に熟れる。材はきわめて有用であり、碁盤、将棋盤に

利用されてよく知られる樹種である。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内での生育地は限られていて、隠岐諸島、出雲、石見の山地の一部に存在する。山地の尾根筋や露岩状の痩せた土地に生育する。

**【存続を脅かす原因】**

生育地での樹林伐開や、樹木の伐倒。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○	○	○																	

ヤナギ目ヤナギ科

# バッコヤナギ(ヤマネコヤナギ)

*Salix bakko* Kimura

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

**【概要】**

高さ10m程になる夏緑の樹種。葉は長楕円形で長さ10cm、幅3cm前後で互生し、葉縁は細かい波状縁で、葉脈は裏側にくぼむ。葉裏は粉白色で白毛が密に生える特徴がある。花は春に咲き、葉に先立って咲き、雄花穂は長さ5cm、幅3cm程で大きく、雌花穂も長さ4cm、幅1.5cm程で、全体として銀白色に輝き美しい。国内では北海

道西南部から近畿地方、そして四国に分布するものとされるが、中国山地にもまれに分布している。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内での生育地は出雲部の一部にのみ見られる。中国山地の斜面に僅かな範囲に群生している。

**【存続を脅かす原因】**

樹林の遷移による環境変化と人為による樹林、樹木の伐開、伐倒。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○																	



ブナ目カバノキ科

# サクラバハノキ

*Alnus trabeculosa* Hand. - Mazz.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵 14

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

県内での生育地はかなり限られていて、いずれも狭い範囲のものである。

## 【概要】

水湿地に生える樹高20m、幹茎30cm前後に生長する夏緑の広葉樹である。葉は長楕円形から広楕円形で、長さ7-8cm、幅4-5cmで互生し、表面の脈は裏側にくぼみ、裏面の脈は隆起する。花は早春、葉の出る前に雄花序は枝の先に5個程を下垂して咲き、雌花序はそのもとに3-5個つけて咲く。ハノキとよく似ているが、成

木の樹皮は灰白色で、ほとんど平滑であり、縦に裂けるハノキとはかなり異なる特徴である。国内では東北地方南部以西の本州と九州の一部に分布し、中国南東部に分布がつながるものとされている。

## 【県内での生育地域・生育環境】

県内では石見西部の谷間の水湿地にのみ生育地が知られる。

## 【存続を脅かす原因】

水湿地の遷移による乾燥立地化、埋め立てによる土地造成などが考えられる。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○					○					○									

イラクサ目イラクサ科

# キミズ

*Pellionia scabra* Benth.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵 14

島根県固有評価：分布限界種 (北限)

環境省：－

## 【選定理由】

県内での生育地はやや限られていて、生育地での個体数は少ない。

## 【概要】

山中谷間に生え、茎のもとの方は木質となっている半低木で高さ50cmばかりになる。茎には白色の短毛が密に生える。葉は楕円形で長さ5cmばかりで先は尾状にとがり、互生する。花は春に咲き、雌雄同株とされる植物であり、雄花序は集散状、雌花序は球状に小花をつけるが目立たない。本州の関東以西から四国、九州、南西諸島

の暖地に分布する。

## 【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部、石見部の海岸寄りの照葉樹林域内で谷間等の陰湿な地に生育地が点在する。生育地での個体数は多くなく、大きく群生することはない。

## 【存続を脅かす原因】

樹林伐開。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○		○		○			○										

イラクサ目イラクサ科

# コケミズ

*Pilea peploides* (Gaudich.) Hook. et Arn.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

## 【選定理由】

県内での生育地は限られていて、人為の影響を受けやすい場である。

## 【概要】

陰地に生える1年草で、草丈は5-10cm程の小型の柔かい植物である。葉は卵円形で長さ5-10mm程で対生する。花は春から秋に咲き、雌花と雄花が混生して頭状花序をなして葉腋につく。雌花被片は2枚、雄花被片は4枚ある。本州の東北地方から四国、九州、南西諸島に分布して、中国、さらに南方に分布する。

## 【県内での生育地域・生育環境】

県内では島根半島に生育地が知られているが、他の地域にもあってもよいと思われる。主として海岸に近い地に分布していて、陰地の崖や、集落の用水路の縁や、石塔などに生えるものも見られる。

## 【存続を脅かす原因】

民家周辺での清掃活動などによる生育地の破壊。生育地の乾燥。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○																		○			

維管束植物

絶滅 野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

タデ目タデ科

# マダイオウ

*Rumex madaio* Makino

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

県内での生育地は限られていて、人為の干渉を受けやすい場である。

**【概要】**

川端などの水湿地に生えるやや大型の多年草。開花株は高さ1m前後に茎を立て、長楕円形で長さ30cm、幅10cmばかりの葉を互生する。花は初夏の頃に咲き、茎の上部に枝を分け、円錐花序状に多くの花をつける。本州、四国、九州に分布する日本特産の植物とされる。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内では出雲部に少しばかりの生育地が知られる。山間の水田脇や小川の辺りの湿地に生える。

**【存続を脅かす原因】**

用水路、小河川の改修工事。水田の区画整理の際に生育地が消滅した所もある。洪水による自然災害。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○										○	○										

モクレン目クスノキ科

# シロモジ

*Lindera triloba* (Sieb. et Zucc.) Blume

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数もきわめて少数である。

**【概要】**

夏緑の低木。葉は広倒卵形で長さ、幅共に10cm前後であり、3行脈が顕著で、3中裂して裂片の先は多くはするどくとがることが特徴的である。花は早春、葉が出る前に咲く。花は前年枝の葉腋に芽に散形状に黄色の小花を数個ずつつける。果実は秋に熟し、球形で径1cmばかり、大きな種子が1個ある。本州の中部以西、四国、九

州に分布域がある。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内では石見西部の西中国山地の一部で、もともと太平洋側分布のもので山陰側に僅かに越して分布しているようにも思える。中国山地脊梁部の尾根筋に生えるものもあれば一部では溪流沿いに生える個体群もある。

**【存続を脅かす原因】**

樹林伐開。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○																	

モクレン目クスノキ科

# バリバリノキ

*Litsea acuminata* (Bl.) Kurata

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：分布限界種 (北限)

環境省：－

**【選定理由】**

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。生育地の中には分布北限地がある。

**【概要】**

山地に生える常緑の大木となる樹種である。葉は長楕円形で長さ15cm、幅3cm前後、互生する。花は夏に咲き、枝先の葉腋に黄白色の花をつける。雄花、雌花があり、果実は翌年の夏前に黒く熟す。本州は関東以西、四国、九州、南西諸島の暖地に分布するものとされている。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内での生育地は石見部、出雲部、隠岐諸島にそれぞれ限られた地に見られる。隠岐諸島では島後にきわめて少数の個体が存在する。県内ではおもに溪谷斜面に生育地があって、他の照葉樹種と混生する。出雲部、石見部での生育地の一部には県立自然公園内に存在していて、それなりに保護された地もある。

**【存続を脅かす原因】**

樹林伐開。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○																	

キンポウゲ目キンポウゲ科

# ユキワリイチゲ

*Anemone keiskeana* Maxim.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

県内での生育地は限られている。

**【概要】**

山地林内、林縁に生える。地中に這う根茎に数枚の根生葉をつけて、草丈は10cmばかり。葉は10cmばかりの葉柄があって、三角形で3小葉に裂けている。小葉は卵状菱形で長さ5cm、幅3cm前後のもの。葉は秋の終りに出て、初夏には枯れるが、表面に独特な白い斑があるのが特徴的である。花は早春に咲き、高さ20cm前後の花茎を立て、上部に3枚の茎葉をつけ、その先に径3cmばかり

で淡紫色の花を1個つける。花は長楕円形の萼片10枚程が花弁状であって目立つ。

本州の近畿地方以西、四国、九州にかけて分布する植物である。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内では出雲部から石見部にかけて生育地が点在するが、限られている。隠岐諸島での生育地は不明である。

**【存続を脅かす原因】**

樹林伐開による生育地の環境変化。園芸上での採取。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○				○													

キンポウゲ目キンポウゲ科

# サンインシロカネソウ

*Dichocarpum ohwianum* (Koidz.) Tamura et Lauener

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵 14

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

**【概要】**

山地の溪側に生える草丈20cmばかりの軟かい多年草。葉は茎の上部に対生して、扇状か、または3小葉に裂けて、縁は欠刻状に浅く裂ける。葉はやや黄緑色にちかい特徴的な色である。花は春に咲き、萼片5枚が花弁状で、倒卵形、長さ1cm弱、淡黄色で、基部に暗赤色の部分があって目立つ。花弁も5枚あるが線形で萼片より小さく

目立たない。花後に2～3の地上走出枝を出すのが特徴的である。

本州の福井県から島根県までの日本海側に特有な分布の植物である。

**【県内での生育地域・生育環境】**

おもに出雲部の山地樹林内の溪側、湿気のある崖地などに生えている。

**【存続を脅かす原因】**

樹林伐開などによる生育地の環境変化。園芸上での採取も考えられる。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○				○													

キンポウゲ目スイレン科

# ジュンサイ

*Brasenia schreberi* J.F.Gmel.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池の保全・管理が年々行われなくなっている。

**【概要】**

北海道から九州に至るまで広く分布。多年生の浮葉植物で、腐植栄養湖など酸性の止水域に生育する。地中を匍匐する根茎から細長い水中茎を伸ばし、楕円形の葉をつける。葉の表面は淡黄緑色で光沢があり、裏面は赤紫色を帯び、若い時期には寒天様のぬるぬるした粘液質の物質に被われる。暗紫色の直径1cmほどの花を水面に咲

かせる。秋になると養分の貯蔵のために水中茎の先端部が肥厚し、親植物から離脱して越冬用の殖芽となる。

**【県内での生育地域・生育環境】**

宍道湖・中海周辺の溜池や三瓶山の姫逃池などに生育。

**【存続を脅かす原因】**

農業形態の変化による溜池の管理不足。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○					○					○					○				

キンボウゲ目スイレン科

# コウホネ

*Nuphar japonicum* DC.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

全国的には普通種であるが、県内では溜池の管理不足や河川の改修によって自生地が減少している。

**【概要】**

全国各地の湖沼、溜池、水路などに生育する抽水植物。根茎は太い海綿質で葉柄痕が目立ち、先端部から葉を展開する。異形葉を持ち、沈水（水中）葉は膜質で淡緑色、浮葉と気中葉は肉質で光沢がある。黄色の花は直径5－7cm、球形の果実は水中で結実・裂開し、仮種皮に被われた径5mmほどの種子を分散する。流水中では沈水葉だ

けの群落を形成することがある。

**【県内での生育地域・生育環境】**

溜池及び小河川。

**【存続を脅かす原因】**

農業形態の変化による溜池の管理不足と河川改修によるコンクリート化。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	△	○	○								○	○				○	○				

キンボウゲ目スイレン科

# ヒツジグサ

*Nymphaea tetragona* Georgi

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池の保全・管理が年々行われなくなっている。

**【概要】**

全国に広く分布している多年生の浮葉植物で、酸性の止水域に生育する。塊状の根茎から春先には薄い膜質の沈水（水中）葉を展開し、後に基部が深く切れ込む広楕円形の浮葉を水面に展開する。浮葉の裏面は紫色を帯びる。花には芳香があり、その直径は3－6cm、柱頭とおしべは黄色で花弁は白色。果実は水中で熟し、数10個か

ら100個ほどの仮種皮に包まれた種子を形成する。

**【県内での生育地域・生育環境】**

宍道湖・中海周辺の丘陵部及び平野部の溜池などに生育。

**【存続を脅かす原因】**

農業形態の変化による溜池の管理不足。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	△				○					○					○				

コショウ目ドクダミ科

# ハンゲシヨウ

*Saururus chinensis* (Lour.) Baill.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵 14

**【選定理由】**

県内での生育地は、遷移によって消滅することが多い。

**【概要】**

暖地の水湿地に生えるやや大型の多年草。地中に太い地下茎があって、茎は高さ50cm程から時に1m程にもなり、長さ10cm、幅5cmばかりの葉を互生する。夏に花が咲く。花序は総状で長さ10cmばかりで、茎の上部の葉に対生するようにつく。開花期には花序がつく茎の上部の葉は下半部が白くなり、目立つ特徴である。花は小さく、両性だが花弁はない。本州、四国、九州、南西諸島から

中国、フィリピンにかけて分布する。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内では出雲部、石見部の低地に生育地が点在する。多くは溜池の縁に生え、群生する。近年では休耕田が一時的な生育地として見られることもある。

**【存続を脅かす原因】**

溜池の管理放棄、休耕田などの生育地での遷移による環境変化。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○										○									

ウマノスズクサ目ウマノスズクサ科

# サンヨウアオイ

*Heterotropa hexaloba* (F. Maek.) F. Maek.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

### 【概要】

山地林内、林縁に生える常緑性の多年草。植物体はほぼ卵形で長さ10cm、幅5cm前後の葉身をもつ葉を数枚根生して生える。葉は長い葉柄があって、葉身の表面は、さまざまな雲紋があって特徴的である。花は春に咲き、径2cm弱の倒円錐状の萼筒からなる花で、萼筒の頭部には6個の瘤状膨出部があるのが特徴である。萼筒は白色

で、頭部で著しくくびれて、先に萼裂片となり、裂片は3片で長さ1cmばかり、紫褐色である。本州の中国地方西部から九州北部に特産する植物である。四国の一部にも分布するとされる。

### 【県内での生育地域・生育環境】

県内では石見西部にのみ生育地が存在する。

### 【存続を脅かす原因】

樹林伐開による生育地での環境変化。園芸上での採取もある。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○				○													

バラ目マンサク科

# コウヤミズキ

*Corylopsis gotoana* Makino

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内での生育地は限られていて、いずれも狭い範囲である。

### 【概要】

夏緑の低木で高さは4-5mばかりで株立ちする樹種。葉は卵円形で長さ10cm、幅8-9cm程のものが互生する。花は早春、葉が出る前に長さ4-5cmの花序を下垂して10個ばかりの黄花をつけて美しく咲く。花序軸は無毛である。本州中部地方以西、四国にかけて分布する。

### 【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は出雲部、石見部の山地の一部に存在している。いずれも夏緑広葉樹二次林からなる山地の谷間から谷頭にかけての地形上に生育地が見られ、生育地によっては生育地内に県道、町道が通り、道路幅等による個体群への影響、個体数減少が心配される。

### 【存続を脅かす原因】

樹林伐開、各種工事等による生育地の直接破壊。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○			○																	

バラ目マンサク科

# イスノキ

*Distylium racemosum* Sieb. et Zucc.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵 15

島根県固有評価：分布限界種 (北限)

環境省：－

### 【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

### 【概要】

樹高20m前後の大木になる常緑の樹種。葉は葉身が長さ6-7cm、幅3cmばかりで厚く、硬い感じで互生する。花期は春。葉腋から出る長さ5cmばかりの総状花序に両性花と雄花をつける。果実は広卵形で長さ1cmばかりのもの。葉にはしばしば大きな虫癭が、時に多くつき、果実と間違えることがある。国内では関東南部以西、四国、

九州、南西諸島にかけての暖地に分布するとされ、中国大陸にも分布する。

### 【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部、石見部の沿岸部の一部に生育地が知られている。神社、仏閣の古い森の中、スダジイ林及びウラジロガシ林内に混生する。県内にはこの種の自生分布北限地があって貴重である。

### 【存続を脅かす原因】

樹林伐開。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○		○																	

維管束植物

絶滅 野生絶滅

絶滅危惧 I 類

絶滅危惧 II 類

準絶滅危惧

情報不足

バラ目ベンケイソウ科

# ミツバベンケイソウ

*Hylotelephium verticillatum* (L.) H. Ohba

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：—

環境省：—

**【選定理由】**

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数もきわめて僅かである。

**【概要】**

露岩上に生える夏緑性の多年草。茎は高さ20-50cmばかりで、葉は楕円形で長さ5cm、幅3cm前後で多肉質、多くは3-4輪生し、時に対生または5輪生のものもある。花は夏に咲き、茎頂部の複散房花序に黄白色の小花を多数つける。

国内では北海道から本州、四国、九州にかけて分布し、

さらに樺太、千島、朝鮮半島、中国などにも続く分布域があるとされる。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内全域においてきわめて僅かな生育地しか知られていない。渓流沿いの露岩地、山地路傍の岩場、海岸沿いの岩場など、さまざまな生育環境での生育地が見られる。

**【存続を脅かす原因】**

岩場での遷移による環境変化。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域								
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
		○	○	○					○	○														

バラ目ベンケイソウ科

# ツメレンゲ

*Orostachys japonicus* (Maxim.) Berger

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：—

環境省：準絶滅危惧 (NT)

**【選定理由】**

県内での生育地は本来、多くはない。生育地での個体数は多い地もあるが、ほとんどの生育地では限られている。

**【概要】**

多くは乾燥する岩上に生える多肉質の植物である。葉は長さ4-5cm、幅5mmばかりの細長い形で多数が根生状に束生する。花は秋に咲き、開花株は高さ20cmばかりの花茎を立てて、穂状に白色の花を多数、密生して咲かせる。開花株は果後枯れる。国内では本州の関東地方以

西、四国、九州に分布して、さらに朝鮮半島、中国に続く分布域をもつ。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内での生育地は各地に点在する。露岩崖地、岩峯の岩場に生える。園芸上での価値もあるとみえて、採取されることがあり、生育地によってはほとんど採りつくされた地もある。しかし、危険な採取困難な場もあって、多くの個体が生存する生育地もある。

**【存続を脅かす原因】**

園芸上での採取。各種工事による生育地の破壊。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域								
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○	○					○						○										

バラ目ベンケイソウ科

# オオメノマンネングサ

*Sedum rupifragum* Koidz.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：島根県固有種

環境省：準絶滅危惧 (NT)

**【選定理由】**

島根県固有の植物であるが、生育地は狭い範囲に限られている。

**【概要】**

多くは岩上に生える草丈20cmばかりの夏緑多年草で、植物体全体が多肉質である。茎は下部で分枝して、長さ2-3cm、幅3-4mmの針状披針形の葉を多数互生して、株状をなす。花は春に咲いて、茎頂の集散状の花序に径5mmばかりの黄色の小花を多数つける。花期にはこの黄色の集まりが美しく目立つ。島根県に固有な種である。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内での生育地は出雲部の一部の狭い範囲に限られて存在する。陽当りのよい乾燥する立地を好むが、かなり陰湿な地でもよく生育している。

**【存続を脅かす原因】**

園芸上での採取があるが、採取困難な危険な岩場もあって、多くの個体が生存する生育場所もある。各種工事による生育地の一部の破壊、個体群の消失。一部では遷移による樹林化が心配される。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域								
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
○								○						○										

バラ目バラ科

# オオヤマザクラ(エゾヤマザクラ)

*Prunus sargentii* Rehder

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数はきわめて少ない。

**【概要】**

樹高20cmを越す大木となる夏緑の樹種。成木の樹皮は横に長い皮目をもつ。葉は長さ2cm前後の葉柄があって、葉柄上部に腺があり、葉身は楕円形で長さ10cm、幅6-7cm前後、鋸歯は一部で2重鋸歯となる。花は春に咲き、多くは葉が出る前に葉腋の部分に散形状に数花を咲かせる。花は大きく径4cmばかりになる。北海道から本州、

四国に分布するが、本州では近畿以西ではまれとなる。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内での生育地は限られていて、隠岐諸島と出雲部の中国山地沿いにまれに見られる。多くは夏緑樹二次林内であって、コナラ、ミズナラ等の夏緑樹と混生している。

**【存続を脅かす原因】**

樹林伐開。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○			○	○																	

バラ目バラ科

# ナンキンナナカマド

*Sorbus gracilis* (Sieb. et Zucc.) C. Koch

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

県内での生育地は限られていて、生育地によっては個体数が激減して、生育地が消滅する危険性がある。

**【概要】**

夏緑性の高さ3m程になる低木で、葉は奇数羽状複葉で3-5対の小葉を対生し、全体は倒卵形の長さ20cm、幅10cm程のもので対生する。宿在性の托葉が1対あることが特徴的である。花は春に咲き、枝先きに5-6cmの長さの花序を出し、10花ばかりの小花をつける。果実は楕円形で長さ1cmばかり、赤く熟れる。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内での生育地はおもに石見部山地にあって、出雲部、隠岐諸島での生育地は不明である。露岩状地やチャート岩盤などの特殊な不安定な立地に多く生育地があるように思われる。

**【存続を脅かす原因】**

樹林伐開と一部では遷移による環境変化によって生育個体が消滅することもある。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○		○																	

バラ目バラ科

# シモツケ

*Spiraea japonica* L. fil.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵 15

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

県内での生育地は限られていて、個体数が激減しつつある。

**【概要】**

高さ1m程の夏緑の低木。葉は多くは卵形で、長さ3-4cm、幅1-2cmばかりで互生する。花は初夏の頃に咲き、今年枝の先端に複散房状の花序に淡紅色から濃紅色の小花を多数つけ、時に美しい。国内では本州、四国、九州に分布し、朝鮮半島、中国にも分布するものとされる。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内での生育地は隠岐諸島、県中部から石見に生育地があるが、まれである。明るい夏緑二次林内や林縁、山地草原、山中路傍の草地などに生える。生育地によってはその場の遷移による環境変化によって個体が消滅しつつある状態も見られる。

**【存続を脅かす原因】**

山地草原の樹林化などの遷移による環境変化。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○		○	○	○			○	○												

フウロソウ目トウダイグサ科

# イワタイゲキ

*Euphorbia jokinii* Boiss.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：分布限界種 (北限)

環境省：—

**【選定理由】**

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

**【概要】**

海岸の岩場、砂礫地に生える多年草。茎は30cmばかりで長楕円形で長さ4-5cm、幅7-8mmの葉を多数互生する。花は春に咲く。茎頂部に多くの葉を輪生し、その先に多くの枝を腋生し、特有な杯状花序に花をつける。国内では本州の関東地方以西、四国、九州、南西諸島に分布する。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内では隠岐諸島の一部に生育地が知られている。出雲部、石見部の海岸にも分布していると思われるが、不明である。隠岐諸島での生育地では波浪などによる自然災害で個体群が消滅した場所もあり、不安定な状態である。

**【存続を脅かす原因】**

波浪などの自然災害。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	露岩
			○																			○

ムクロジ目ムクロジ科

# モクゲンジ

*Koelreuteria paniculata* Laxm.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵 15

島根県固有評価：—

環境省：—

**【選定理由】**

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

**【概要】**

夏緑性の樹木で、かなりな大木となる樹種である。葉は1回羽状複葉、長さ30cm、幅15cmばかりで、小葉は長さ7-8cm、幅4-5cmで7-8対。花は初夏の頃、枝先に円錐状の大きな花序に黄色の小花を多数つけて、時に美しく咲く。果実が特徴的であって、長さ5cm、幅3cm程で卵形の風船状に膨れたもので、中に黒色球形の種子が数個ある。国内での分布は本州のおもに日本海側の海岸にあって、朝鮮半島、中国に続く分布のものである。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内では隠岐諸島と出雲部の海岸に生育地がある。多くは海岸の露岩崖地や崖錐地などの不安定立地に生育している。国内での分布は自生かどうか不明であるとする資料もあるが、県内での生育地の状況からは自生としてもよいように思える。

**【存続を脅かす原因】**

樹林伐開、海岸の開改行為。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	露岩
○			○																		○	○

アオイ目ホルトノキ科

# コバンモチ

*Elaeocarpus japonicus* Sieb. et Zucc.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：—

環境省：—

**【選定理由】**

県内での生育地は石見地方西部にのみ知られていて、生育地での個体数も限られたものである。

**【概要】**

常緑の樹種で、樹高10数mになり、樹皮は灰白色で、ほとんど平滑である。新梢は緑色で、葉は長さ10cm、幅3-5cmばかりの楕円形で、互生する。年間を通じて、一部の葉が紅色を帯びて紅葉状態のものがみられるのが特徴的である。雌雄異株とされる樹種であり、花は初夏の頃に咲き、前年枝の葉腋につく総状花序に淡黄緑色の

目立たない小花をつける。国内では本州太平洋側、四国、九州、南西諸島に分布し、中国に分布域がつながる植物である。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内での生育地は県西部にのみ知られている。照葉樹林としてのスダジイ林内から林縁、一部では夏緑二次林、照葉樹萌芽林内にも生える。

**【存続を脅かす原因】**

樹林伐開。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○																	



アオイ目シナノキ科

# ヘラノキ

*Tilia kiusiana* Makino et Shirasawa

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵 15

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も限られている。

### 【概要】

夏緑の樹種で樹高は10数mとなる。葉は葉身が三角状卵形で長さ6－8cm、幅3－4cmばかりで基部は左右が不对称形であることは特徴的である。先端は尾状に伸びる。葉柄は1cm程と短い。花は初夏の頃に、葉柄の基部に長さ5cmばかりの花序をつけて淡黄色の小花を10個ばかりつける。仮雄蕊が花弁状で目立つ。総包葉は狭長楕

円形で、この植物の仲間の特徴的な形のものである。果実は径5mm程の球形で白色の短毛が密生する。分布は本州では兵庫、奈良、山口、そして四国の一部と九州にあり、本州ではまれな植物である。

### 【県内での生育地域・生育環境】

県内では石見西部に生育地が知られている。夏緑二次林内の斜面に生える。

### 【存続を脅かす原因】

樹林伐開。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○				○													

フトモモ目アリノトウグサ科

# タチモ

*Myriophyllum ussuriense* Maxim.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池の保全・管理が年々行われなくなっている。

### 【概要】

全国各地の湖沼、溜池、湿地などに群生する多年生の両生植物。異形葉を持ち、水中と陸上で顕著な形態の可塑性を示す。陸生の場合にはふつう5－20cmほどの高さしかないが、沈水状態の植物の草高は時に50cmにも達する。水中葉（沈水葉）は羽状に細裂し、陸生形の葉（気中葉）は長さ4－10mmの線形またはやや羽状。雌雄異株

で花は気中葉の葉腋に付く。冬季、陸生型は越冬芽（殖芽）を形成して植物体は枯れる。

### 【県内での生育地域・生育環境】

宍道湖・中海周辺の丘陵部及び平野部の溜池などの止水域に生育。

### 【存続を脅かす原因】

農業形態の変化による溜池の管理不足。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	△	△										○									

フトモモ目アリノトウグサ科

# フサモ

*Myriophyllum verticillatum* L.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池の保全・管理が年々行われなくなっている。

### 【概要】

全国各地の湖沼、溜池、水路などに生育する多年生の沈水植物。茎がつる状に伸び、よく分枝して繁茂する。これまで県内ではホザキノフサモと絶滅危惧Ⅱ類のオグラノフサモの報告はあったが、フサモの報告は無かった。今回、県東部の溜池でその生育が確認されたことから、情報不足から準絶滅危惧にランクを変更した。

### 【県内での生育地域・生育環境】

県東部の溜池。

### 【存続を脅かす原因】

農業形態の変化による溜池の環境変化と管理不足。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○												○									

維管束植物

絶滅 野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

セリ目セリ科

# ボタンボウフウ

*Peucedanum japonicum* Thunb.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：分布限界種 (北限)

環境省：—

**【選定理由】**

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も僅かである。

**【概要】**

海岸に生えるやや大型の多年草。葉は1~3回羽状複葉で、少しばかり青白い色が特徴的である。花は夏に咲く。花茎は高さ50cmばかり、時に1m程にもなり、先で2~3の枝を出し、枝先の複散形花序に白色の小花を多数つける。

国内では本州の関東地方以西、四国、九州、南西諸島

に分布して、中国、フィリピンに分布が続くものとされる。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内では石見西部の海岸の一部に生育地がある。生育地は海岸の路傍で、急な崖地にある。

**【存続を脅かす原因】**

道路管理上での何らかの影響、あるいは生育地そのものの破壊が心配される。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○																		○	

ツツジ目ツツジ科

# レンゲツツジ

*Rhododendron japonicum* (A. Gray) Suringar

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵 15

島根県固有評価：—

環境省：—

**【選定理由】**

県内での生育地はやや限られていて、生育地及び個体数が減少しつつある。

**【概要】**

夏緑性の樹木で高さ1~2mばかりの低木である。葉は倒披針形で長さ7~8cm、幅2~3cmで枝先に束生する。花は春に咲いて、枝先の短い総状花序に径5cmばかりのやや大きい赤橙色の色を5~10花ばかりつけて目立ち、時に美しく咲く。国内では本州、四国、九州に分布する。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内全域の山地に小規模な生育地が点在する。多くは湿地、湿原状地に生えるが、しばしば、やや乾燥気味な山地草原、林縁草地にまで生える。

**【存続を脅かす原因】**

園芸上での採取も考えられるが、遷移による樹林化等の生育地の環境変化が大きく考えられる。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○		○		○				○												

ツツジ目ツツジ科

# ゲンカイツツジ

*Rhododendron mucronulatum* Turcz. var. *ciliatum* Nakai

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵 15

島根県固有評価：—

環境省：準絶滅危惧 (NT)

**【選定理由】**

県内では生育地がきわめて限られている。一部では植生遷移により絶滅が危惧される。

**【概要】**

夏緑低木のツツジ類の一種類で、多くは岩上に生育し、基部から多くの枝を出して叢生する。葉は長さ5cm程、巾2~3cmの楕円形で先端に腺状突起がある。花は早春、葉に先立って咲き、径4cmばかり、淡紫紅色で5深裂の花冠を有する。本州の中国地方、四国、九州の北部から朝鮮半島にかけて分布域がある。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県西部にのみ生育が知られ、個体が群生する地は露岩地の岩上で上層を樹木が被うことのない場所である。

**【存続を脅かす原因】**

遷移による樹林化、園芸上での採取。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎		○																	

サクランソウ目ヤブコウジ科

# タイミンタチバナ

*Myrsine segwinii* Lev.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：分布限界種 (北限)

環境省：—

### 【選定理由】

県内での生育地はまれであり、生育地での個体数は限られている。

### 【概要】

常緑の高さ10m程になる樹種。葉は狭倒卵形から狭長楕円形で長さ15cm、幅3cm前後で、側脈が不明瞭であって、互生する。花は春に咲き、葉腋に5~10花ばかりの白色小花を束生する。果実は径5mmばかりの球形、黒く熟れる。本州の関東以西、四国、九州、南西諸島に分布するとされ、太平洋側の暖地照葉樹林内にはきわめて普

通の植物であるが、日本海側ではまれなものとなる。

### 【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は石見西部から中央部にかけてきわめてまれに存在する。本来、暖地の植物であり海岸に近い地の照葉樹林域の林内または林縁に生える。

### 【存続を脅かす原因】

森林伐開。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○						○													

カキノキ目ハイノキ科

# クロバイ

*Symplocos prunifolia* Sieb. et Zucc.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：分布限界種 (北限)

環境省：—

### 【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

### 【概要】

常緑の高さ10数mになる樹種。若木の樹幹には特徴的な白点状の皮目があって目立つ。葉は楕円形で長さ7-8cm、幅3cmばかりで互生する。花は春に咲いて、前年枝の葉腋に5cmばかりの花序を出し、径1cmばかりの白色花を総状に10花程つける。春の照葉樹林内に白色の樹冠はこの樹種の存在を目立たせる。果実は長さ6-7mm

の卵形で黒く熟れる。本州の関東地方以西、四国、九州、南西諸島に分布する。日本海側ではまれで、県内には分布北限の生育地がある。

### 【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は県全域の照葉樹林域内に点在している。分布北限地は隠岐諸島にある。

### 【存続を脅かす原因】

森林伐開。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○	○	◎				○													

モクセイ目モクセイ科

# ヤナギイボタ

*Ligustrum salicinum* Nakai

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：—

環境省：—

### 【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も限られている。

### 【概要】

夏緑性の高さ5m程になる低木である。葉は楕円形で両端はとがり、長さ10cm、幅3-5cmばかりで対生する。花は初夏に咲き、枝先の大きい円錐花序に白色小花を多数つける。花冠は筒状で中程から先で4裂し、裂片は開花時にやや反曲して咲く。果実は黒く熟れる。国内では本州の近畿以西、四国、九州に分布し、朝鮮半島南部に

も分布するとされる。

### 【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐諸島、出雲部山地に生育地が知られているが、石見部では不明である。多くは山地の夏緑二次林内、崖錐状地に生えている。

### 【存続を脅かす原因】

樹林伐開と生育地の照葉樹林化による環境変化。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	◎		◎	○																	

維管束植物

絶滅 野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

リンドウ目マチン科

# ホウライカズラ

*Gardneria nutans* Sieb. et Zucc.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：分布限界種 (北限)

環境省：—

**【選定理由】**

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数はきわめて僅かである。

**【概要】**

常緑の蔓性の木本植物である。林内、林縁に生えて、周囲の樹種に絡みつき、長く伸び上がり林冠にまで達する。葉はほぼ楕円形で両端はとがり、長さ10cm、幅5cm前後で、対生する。若い枝は緑色である。花は初夏に咲き、葉腋に1~2個の白色花をつける。花冠は5裂して、開花時にはその裂片が強く外側に反り返るのが特徴であ

る。果実は径1cm程の球形で赤橙色に熟れて美しい。本州の房総半島以西、四国、九州に分布域があり、主として太平洋側の暖地に生育する。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内での生育地は全域の沿岸寄りの照葉樹林域内の山地に点在して見られる。時に樹冠にまで伸び上がる。

**【存続を脅かす原因】**

樹林伐開。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○				○													

リンドウ目ミツガシワ科

# ガガブタ

*Nymphoides indica* (L.) O. Kuntze

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：—

環境省：準絶滅危惧 (NT)

**【選定理由】**

減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池の保全・管理が年々行われなくなっている。

**【概要】**

本州以西の池沼や溜池に群生する多年生の浮葉植物。塊状の根茎から葉柄あるいは茎を伸ばし、ハート型の浮葉を水面に展開する。浮葉の大きさは大小さまざまで大きなものは直径20cmを越える。浮葉の表面は淡緑色で全縁、裏面は淡紫色を帯び粒状の腺点が目立つ。花は葉柄の基部に束生し、5裂する花冠は白色で径約15mm、各花

弁の内側に白毛を多数生じる。秋季にバナナの房状の特徴ある殖芽を形成して、冬を越す。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県東部、県中部の池沼や溜池。

**【存続を脅かす原因】**

農業形態の変化による溜池の管理不足。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○											○									

リンドウ目ガガイモ科

# スズサイコ

*Cynanchum paniculatum* (Bunge) Kitagawa

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：—

環境省：準絶滅危惧 (NT)

**【選定理由】**

生育地は県全域に点存しているが、生育地での個体数は激減または消滅寸前が多い。

**【概要】**

陽当りのよい草地に生える夏緑性の多年草。茎は高さ30-50cmばかりで、線状長楕円形で、長さ7-8cm、幅1cm前後の葉を対生させる。花は夏に咲き、茎の上部の葉腋につく集散状の花序に黄褐色の花をまばらにつける。果実は袋果で披針形、長さ5-8cmばかりである。

北海道から本州、四国、九州に分布して、朝鮮半島、

中国に続く分布がある。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内の山地草原、林縁の草地、溜池の土堤などの草地に生える。林縁や溜池の土堤などの草地では遷移によって個体群が消滅した所が多くある。

**【存続を脅かす原因】**

遷移による生育地の環境変化。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○		○				○												

リンドウ目アカネ科

# イナモリソウ

*Pseudopyxis depressa* Miq.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

### 【概要】

山地に生える多年草。植物体は地を這う根茎があって、先で直立する地上茎となり、卵形で長さ3-4cm、幅2-3cmの葉を対生して、草丈は5cm前後のもの。花は春に咲いて、多くは葉腋に1個の淡紅紫色の花冠をもつ花をつける。花冠は筒状で長さ2cmあまり、先は5裂片に裂け、開く。本州は関東地方以西、四国、九州に分布する。

### 【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地はまれであって、出雲部に2-3の生育地が知られているが石見部での状況は不明である。山地での林道沿いの斜面や岩場などに生えている。出雲部では開発事業により、生育地が消滅した場がある。

### 【存続を脅かす原因】

生育地での遷移による環境変化。人為による生育地の破壊。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○			○				△													

シソ目ヒルガオ科

# アオイゴケ

*Dichondra repens* Forst.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：分布限界種 (北限)

環境省：－

### 【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地は集落周辺にあり、生育地破壊の危険性が大きい。

### 【概要】

地を這う小型の多年草であり、葉は円腎形で、長さ、幅とも1-2cm程のものである。花は春から夏にかけて咲き、目立たない花であるが、径3mmばかりの小花で、花冠は5裂して黄色である。本州の南部から四国、九州、南西諸島に分布して、さらに熱帯にまで続く分布域がある植物である。県内での生育地はこの植物の分布北限域

になる。

### 【県内での生育地域・生育環境】

県内では、出雲部の一部、島根半島の東端部にのみ生育地が知られていて、石見部にも生育地が存在する可能性があるが、今のところ不明である。

### 【存続を脅かす原因】

生育地のほとんどが集落周辺であり、空地や墓地などにあり、人為による生育地の破壊、消滅が心配される。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○								○													

シソ目ムラサキ科

# ホタルカズラ

*Lithospermum zollingeri* DC.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内での生育地はまれであって、生育地での個体数も多くはない。

### 【概要】

山地の草地に生える多年草。草丈は20cmばかりで、葉は狭長楕円形で長さ5cm、幅2cm前後で互生する。花は春に咲き、茎の上部の葉腋に径1.5cmばかりの青紫色の花をつける。花冠は漏斗状で先が5裂片に裂け、裂片の基部に白い隆起線があり、特徴的である。花後、茎の下部から長い枝が出て、先で発根し、新しい株をつくる。

北海道から本州、四国、九州、南西諸島に分布して、朝鮮半島、中国にもある。

### 【県内での生育地域・生育環境】

県内では海岸沿いの土地に生育地があり、林縁、山道路傍など崖錐状地の草地に生える。時に海岸クロマツ林内、林縁にも生える。

### 【存続を脅かす原因】

生育地の遷移による環境変化。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○			○	○				○										○			

シソ目ゴマノハグサ科

# トウテイラン

*Pseudolysimachion ornatum* (Monjus.) Yamazaki

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵 15

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

**【選定理由】**

県内では隠岐諸島にのみ生育がある植物で、県外の生育地はきわめてまれであって、個体数も多くはなく、絶滅が心配される所もある。

**【概要】**

海岸のおもに岩上に生える植物で、草丈は50cmばかりとなり、数本の茎を立てて、株状をなす。植物体全体が白色の綿毛に被われていて、特に葉裏は白色そのものである。葉は長楕円形、長さ5cmばかりで対生する。花は夏に咲き、茎の上部の穂状の花序に青紫色の小花を多数

つける。粉白の植物体に青紫色の花穂がたいへん美しい。隠岐諸島以外では鳥取県、兵庫県、京都府の日本海側の海岸の一部に分布する。

**【県内での生育地域・生育環境】**

隠岐諸島では全島に生えて、附属の小島などにも多く生える。海岸の岩上に生えるが、時に内陸の露岩上や、時に道路法面の露岩上にも生えることがある。

**【存続を脅かす原因】**

内陸側での生育地では遷移による環境変化が心配される。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	露岩
			○																			○

シソ目ゴマノハグサ科

# イヌノフグリ

*Varonica didyma* Tenore var. *lilacina* (Hara) Yamazaki

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵 15

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

**【選定理由】**

県内での生育地は限られている。

**【概要】**

道端などの草地に生える越年草。茎は分枝して地に這い、草丈は10cmばかりのもの。葉は卵円形で長さ、幅とも1cm前後、対生または互生する。花は春早くに咲く。茎の先端部の葉腋に径3-4mmの淡紅色の小花を1個ずつつける。国内では本州、四国、九州、南西諸島に分布する。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内ではおもに海岸沿いの土地に生育地がある。生育地は限られているが、おもに道端に生えていて、時には岩場にも生える。生育地はいずれも狭い範囲であり、生育地によっては、時に消滅して、異なる場所に新たな生育地が生じていることもある。

**【存続を脅かす原因】**

草地の遷移による環境変化が考えられる。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○			○																	○	

シソ目ゴマノハグサ科

# カワヂシャ

*Veronica undulata* Wall.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

**【選定理由】**

県内での生育地は点在して、多くはなく、生育地での個体数も多くはない。

**【概要】**

おもに川の中や縁に生える越年草で草丈50cmばかりになる。葉は披針形から長楕円状披針形で無柄、長さ7-8cm、幅2cmばかりで対生する。花は春から初夏の頃に咲き、葉腋に長さ10cm前後の総状花序を出し、小花を多数つける。花冠は短い筒があって先は4裂片に裂け淡紅紫色、径3-4mmである。本州の中部以西、四国、九州、

南西諸島に分布し、中国、東南アジアに分布が続く。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内では限られてはいるが生育地が点在する。平野部から山地の河川水辺に生育するが個体数は多くはない。生育地は年毎にかなり移動することもあり、消滅する場所、新たに生育が確認される場所がある。

**【存続を脅かす原因】**

生育地での遷移による環境変化。河川改修工事等による生育地の破壊。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○									○					○					

シソ目タヌキモ科

# イヌタヌキモ

*Utricularia australis* R.Br.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

**【選定理由】**

減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池の保全・管理が年々行われなくなっている。

**【概要】**

全国の湖沼や溜池、水田などに生育する多年生の浮漂植物。タヌキモとよく似るが、タヌキモの花茎の断面の中央部には小さな穴があるのに対しイヌタヌキモは中実であること、タヌキモの殖芽が濃緑色の卵球形で大きさ5-20mmほどであるのに対しイヌタヌキモの殖芽が暗褐色の紡錘形で大きさ3-10mmほどであることなどで識別

される。

**【県内での生育地域・生育環境】**

平野部及び丘陵部の池沼や溜池。

**【存続を脅かす原因】**

農業形態の変化による溜池の管理不足。

生育地域				山地地域			里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○				○										○				

マツムシソウ目スイカズラ科

# ハマニンドウ

*Lonicera affinis* Hook. fil. et Arn.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：分布限界種 (北限)

環境省：－

**【選定理由】**

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も限られている。

**【概要】**

常緑の蔓性木本植物で、分枝して周囲の樹種に絡まり高く樹上に伸び上がる。葉は多くは長さ5-10cm、幅2-4cmばかり、楕円形で対生する。葉裏は粉白のものが多く。花は初夏に咲き、葉腋に長さ5cmばかりの総状花序をつけて、10花程をつける。花冠は長さ3-4cmで、筒状で中程で2裂し、上唇は4裂し、はじめ白色で後に

黄色に変色する。果実は黒く熟れる。中国地方以西、四国、九州、南西諸島に分布する。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内では出雲部、石見部の海岸沿いの場に生育地がある。出雲部での生育地には分布北限地がある。

**【存続を脅かす原因】**

樹林伐開、諸開発工事。

生育地域				山地地域			里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○						○													

マツムシソウ目スイカズラ科

# オニヒョウタンボク

*Lonicera vidalii* Franch. et Savat.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵 16

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

**【選定理由】**

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。全国的にも分布がまれな植物である。

**【概要】**

夏緑性の低木で、葉はほぼ楕円形で長さ10cm、幅5cm程になり、表面はやや光沢があって対生する。花は5-6月頃に咲き、葉腋に多くは2花ずつつく。花は筒状で先で2唇形となって、白色花、後にやや黄色を帯びてくる。果実は液果で赤く熟れ、ほぼ球形、2果が基部で合着する特徴がある。果実は有毒であるとされる。本州の

東北地方から中国地方までの間に隔離的に分布している植物である。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内では隠岐諸島にのみ生育地が知られていて、出雲部、石見部での生育地は不明である。夏緑二次林内に生える。

**【存続を脅かす原因】**

樹林伐開。

生育地域				山地地域			里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○	○																	

マツムシソウ目スイカズラ科

# チョウジガマズミ

*Viburnum carlesii* Hemsley var. *bitchiuense* (Makino) Nakai

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵 16

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

**【選定理由】**

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。全国的にも分布地は限られている。

**【概要】**

夏緑性の低木で高さ2-3mのもので、葉は楕円形から広楕円形で長さ10cm、幅7-8cmばかり、対生する。花は春に咲き、枝先に集散花序をなして20花程の小花がつく。蕾は紅色を帯びて美しい。花冠は筒状で、先端は5裂し、開花時には外に開き白色である。花には強い芳香があって特徴的である。果実は楕円形、長さ1cmばか

り、初め赤く熟れ後に黒く熟れる。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内では隠岐諸島と出雲部に生育地が知られている。出雲部での生育地はきわめてまれである。生育地の多くは海岸または海岸に近い岩場である。出雲部ではやや内陸の岩場に生育地がある。

**【存続を脅かす原因】**

遷移による樹林化が心配される。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○			○	○				○										○			

マツムシソウ目オミナエシ科

# カノコソウ

*Valeriana fauriei* Briq.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵 16

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

県内での生育地はまれな状態となっている。生育地での個体数も多くはない。

**【概要】**

山地の少しばかり湿り気のある草地に生える多年草で草丈は50cmばかりになる。葉は対生するが、茎の下部につく葉は長い葉柄があって羽状に2-3対の小葉があり、上部では柄も短く、羽状に全裂しない小形のものとなる。花は春から初夏にかけて咲き、茎の上部の集散花序に小花を多数つける。花冠は径3mmばかりで淡紅色で

ある。北海道から本州、四国、九州に分布し、朝鮮半島、中国に分布が続く植物である。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県全域に生育地が点在するが、近年、これらの生育地が消滅しつつあって、かなりまれな状態となっている。以前、林縁路傍などのやや陰湿な地に生育していた個体群などは現在はほとんど消滅してしまっている。

**【存続を脅かす原因】**

生育地での遷移、樹林伐開などによる環境変化。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○																	

マツムシソウ目マツムシソウ科

# ナベナ

*Dipsacus japonicus* Miq.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

県内での生育地はまれとなっていて、生育地での個体数もきわめてまれである。

**【概要】**

山地に生えて、茎の高さは1mばかりになるやや大型の越年草。葉は頭大羽状に全裂し、対生する。植物体全体に刺状の剛毛が生える。花は夏に咲く。茎の上部に枝を多く分けて、先に長さ2-3cmの頭状花序に花をつける。総苞片は線形で反り返る。小花の花冠は長さ5-6mmで先は4裂する。国内では本州、四国、九州から朝鮮

半島、中国東北部に分布が続く。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内の山地の林縁部や川辺りなどの草地に生育地がまれに存在する。また、時に山中での崩土、崩壊地に群生するのが見られることもあるが、長年にわたって生育地が存続することはまれなようである。

**【存続を脅かす原因】**

生育地での遷移による環境変化。人為による生育地破壊。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○		○															



キキョウ目キク科

# ヒロハヤマヨモギ

*Artemisia stolonifera* (Maxim.) Komarov

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵 16

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

県内での生育地はややまれで、生育地での個体数も多くはない。

### 【概要】

山地の草原や林縁の草地に生える草丈50cmばかりの多年草。葉は多くは卵状長楕円形で長さ10cm、幅5cmばかりで羽状に浅く裂けて、互生する。葉の裏は綿毛があって白色である。花は夏から秋にかけて咲く。茎の上部に多くの枝を出し、多くの頭花をつける。頭花は小さく、長さ4-5mm、幅3-4mm、鐘球形である。国内では本

州の中国地方から北九州にかけて分布し、さらに朝鮮半島、中国東北部に続く分布域をもつ。

### 【県内での生育地域・生育環境】

県内では中国山地沿いの山地に生育地が点在する。やや乾いた草原状地に生え、ときに山間の耕作地の周りでの草刈場などにも生育地が存在する。

### 【存続を脅かす原因】

生育地での遷移による環境変化。草刈場などは耕作地の管理放棄による生育地の樹林化から生育地が消滅している。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○					○															

キキョウ目キク科

# ダルマガク

*Aster spathulifolius* Maxim.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵 16

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内での生育地はやや限られていて、生育地での個体数も多くはない。

### 【概要】

海岸の岩上、岩壁に生える夏緑の多年草。草丈は30cmばかりになり、根際でいくつかの枝分れがあって、葉は枝の先に多くが束生する。葉は長さ10cm、幅3-5cmばかりの倒卵状楕円形で基部に向かい狭くなり、両面に軟毛が密生する。花は秋に咲き、頭花は径4-5cmで、舌状花は1列で青紫色。筒状花冠は7mmばかり、果実は長

さ3-4mmで、冠毛は不同長である。舌状花が白色のものがしばしば見られる。九州から日本海側海岸に分布し、山口県から島根県、さらに朝鮮半島、ウスリーにかけて分布域がある。

### 【県内での生育地域・生育環境】

県内では石見西部と隠岐諸島に生育地が知られている。海岸の風衝崖地や露岩上に強く生える。

### 【存続を脅かす原因】

園芸上での価値がかなり高く、採取による個体群の破壊が心配される。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	露岩
		○	○																	○		○

キキョウ目キク科

# オッタチカンギク

*Dendranthema indicum* (L.) Des Moulins var. *maruyamanum* Kitamura

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：－

### 【選定理由】

生育地全体での個体数はかなりな数のものが存在すると思われるが、生育地の範囲が狭く限られたものである。

### 【概要】

草丈は多くが30-50cm程で、葉は卵形で長さ3-4cm、幅1-2cmで、3-5中裂して、互生する。花は秋に咲き、茎の上部で、ゆるい散房状に枝を分け、頭花をつける。頭花は径2cmばかりで舌状花は黄色に美しく咲く。島根県に固有な型の植物であり、貴重である。

### 【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は出雲部の一部の狭い範囲に存在する。多くは岩上、岩質の崖地などの植生が貧弱な立地に生えている。

### 【存続を脅かす原因】

生育地での遷移による樹林化。道路拡幅工事などによる生育地の破壊。ただし、拡幅工事による岩質の切り土面では年数を経るにつれて個体群が復元することもある。園芸上での採取も見られるが、人の手が届かない危険な立地もあって採りつくされることは考えられない。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○					○					○			○									

キキョウ目キク科

# ハマベノギク

*Heteropappus arenarius* Kitam.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数は多くはない。

**【概要】**

海岸の砂地に生える越年草、時に多年草。植物体は根生葉があって、倒狭卵形で長さ5cm、幅1.5cmばかりで基部は細くなり長さ1.5-3cm程の葉柄部分がある。茎は基部で分枝して四方に枝をだし、先で立ち上がり、頭花をつける。草丈は20cm程のものである。花は夏から秋にかけて咲き、頭花は1個つき、径3-4cmばかりで淡

青紫色の舌状花をつける。舌状花の冠毛は短く、筒状花のものは長い。本州の富山県以西の日本海岸を九州まで分布するものとされる。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内では石見部の海岸に生育地があって、砂浜から附近の岩上にも生える。

**【存続を脅かす原因】**

強風による生育地の破壊、海岸における道路等の整備事業等における生育地の破壊。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○																		○	

キキョウ目キク科

# ナガバノコウヤボウキ

*Pertya glabrescens* Sch. Bip.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

**【概要】**

山地に生える夏緑の草状小低木で、茎は細いが硬く、枝を分けて長さ1mちかくになる。葉は2形あって、1年生の枝には長さ2cmばかりの卵形の葉が互生し、2年生の枝には節毎に長楕形で長さ2-5cmの葉が4-5枚束生する。花は夏から秋にかけて咲き、2年生枝に束生する葉の中央に1頭花がつく。1年生枝には花はつかな

い。本州の宮城県以南、四国、九州に分布し、蛇紋岩地帯に多い植物とされる。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内では出雲部にまれに生育地が知られていて、その他の地域での分布状況については不明である。生育地はほとんどが山地の路傍、林縁である。

**【存続を脅かす原因】**

生育地での遷移、特に照葉樹林化による影響。道路拡張その他の人為干渉。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○				○													

イバラモ目トチカガミ科

# スブタ

*Blyxa echinosperma* (Clarke) Hooker

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

**【選定理由】**

減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池の保全・管理が年々行われなくなっている。

**【概要】**

北海道を除く全国各地の水田、溝、溜池などの浅水中に生育する1年生の沈水植物。きわめて短い地下茎から下方にひげ根を多数出すとともに薄い鮮緑色の葉を水中に根生する。葉縁には細鋸歯がある。葉の長さは10cmから水深の深い場所では1mを越すなど、変化に富む。かつては水田雑草であったが、除草剤の使用や水質汚濁の

影響により、現在では全国的に減少している。

**【県内での生育地域・生育環境】**

溜池、水田、水路など。

**【存続を脅かす原因】**

農業形態の変化による溜池の管理不足と水田の乾田化及び側溝のコンクリート化などの生育地の環境変化。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○				○			○		○			○		○				

イバラモ目トチカガミ科

# ヤナギスブタ

*Blyxa japonica* (Miq.) Maxim. ex Ascherson & Guerke

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池や用水路の保全・管理が年々行われなくなっている。

**【概要】**

北海道を除く全国各地の水田、溝、溜池などの浅水中に生育する1年生の沈水植物。茎が伸張し、植物体の長さ10-30cm、下部は地下茎となり泥中を匍匐し、節からひげ根を出すとともに無柄で線形、時に紫色を帯びた淡黄緑色の薄い互生葉を密に付ける。全体に軟弱。スブタ同様に、かつては水田雑草であったが、除草剤の使用や

水質汚濁の影響により、現在は全国的に減少している。

**【県内での生育地域・生育環境】**

溜池、水田、水路など。

**【存続を脅かす原因】**

農業形態の変化による溜池の管理不足と水田の乾田化及び水路のコンクリート化などの生育地の環境変化。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○				○			○		○			○		○				

イバラモ目トチカガミ科

# ミズオオバコ

*Ottelia alismoides* (L.) Pers.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

**【選定理由】**

主要な生育場所である溜池の保全・管理が年々行われなくなるとともに、圃場整備による水田の乾田化が進行している。

**【概要】**

全国各地の溜池、水路、水田などに生育する1年生の沈水植物。短い茎からひげ根を多数出し、柄をもつ広卵形の柔らかな薄い葉を根生する。ミズオオバコは日本産の水草の中ではもっとも顕著な種内変異を示す種のひとつで、以前は葉の大きさや葉脈の数などでミズオオバコ

とオオミズオオバコの2種に区分することもあったが、現在は生育環境による違いとされて2種を区分しない。3枚の花弁は白色あるいは薄い桃色。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内各地の溜池、用水路、溝、水田など。

**【存続を脅かす原因】**

農業形態の変化による溜池の管理不足や乾田化、水路のコンクリート化。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○							○		○			○		○				

イバラモ目ヒルムシロ科

# イトモ

*Potamogeton pusillus* L.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

**【選定理由】**

生育場所が限られており、開発によって生育が危ぶまれる。

**【概要】**

全国各地の湖沼、溜池、水路などに生育する多年生の沈水植物。互生する葉は無柄で線形、先は尖る。長さ2-8cm、幅1-1.5mmで中央脈が明瞭。秋に葉茎の先端部が長さ1.5-2.5cmの殖芽となり、水底に沈んで越冬する。同属のホソバミズヒキモがしばしばイトモと誤同定されるので、注意が必要である。

**【県内での生育地域・生育環境】**

以前から隠岐(島後)の池沼での生育が知られていたが、2003年に県東部丘陵部の沼でも見つかっている。

**【存続を脅かす原因】**

開発による生育場所の消失。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○			○				○					○					○				

イバラモ目イバラモ科

# オオトリゲモ

*Najas oguraensis* Miki

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

除草剤の影響のほか、減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池や側溝の保全・管理が年々行われなくなっている。

**【概要】**

本州、四国、九州の湖沼、溜池、水田、溝などに生育する1年生の沈水植物。細い水中茎が2叉状に分枝を繰り返す。葉茎ともに硬いため水中では立体的な構造となるが、茎はもろく容易に折れる。葉身は線形で長さ2－4cm、幅0.5－1.5mmで多数の鋸歯がある。雌雄同株で

雄花は苞に包まれ葯は4室。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県東部の溜池で記録があるが、中部・西部では詳しい調査が行われていない。

**【存続を脅かす原因】**

除草剤の使用及び農業形態の変化による溜池の管理不足と側溝のコンクリート化などが考えられる。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	△	△								○		○			○		○				

イネ目イネ科

# タキキビ

*Phaenosperma globosum* Munro

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：分布限界種（北限）

環境省：－

**【選定理由】**

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くない。

**【概要】**

山際などの草地に生えるやや大型の多年草で株として生える。根生葉は長い柄があって、葉身は50cmばかりで広線形。花は夏から秋にかけて咲く。稈は高さ1mばかりで、稈の上部に枝を分けて、円錐状の花序に、1列に小穂をつける。小穂は長さ4mm程で、1花からなる。穎果は球状、長さ3mmばかり。

本州の近畿地方以西、四国、九州に分布し、朝鮮半島、中国中南部に分布が続く。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県中央部に生育地があり、林縁の草地や崖地などに生える。出雲部や石見西部での生育地は明らかではない。

**【存続を脅かす原因】**

生育地での遷移による環境変化。諸整備事業による生育地の破壊。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○							○													

イネ目イネ科

# ウキシバ

*Pseudoraphis ukishiba* Ohwi

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

生育場所が限られており、開発が危ぶまれる。

**【概要】**

本州、四国、九州の湖沼、溜池、水湿地に生育する浮葉あるいは半抽水の多年生植物。茎は長い棹状で軟質。順次枝を出し、上部は斜上あるいは水面に浮かぶ。節から水中に根を出す。水位が低下した場合には泥中に根を伸ばす。葉身は淡緑色で狭線形あるいは広線形、長さ3－6cm、幅2.5－5mmで、縁はざらついて先はとがる。葉は互生し、長さ約3cmの筒状の葉鞘が茎を抱く。花序

は棹の先に単生するが基部は葉鞘の中にとどまる。総状花序の長さは3－5cmで筆状に見える。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県東部の溜池。

**【存続を脅かす原因】**

家庭雑排水の流入による生育地の有機汚濁及び埋め立て。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	△	△								○		○			○		○				

タコノキ目ミクリ科

# ミクリ

*Sparganium erectum* L.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

**【選定理由】**

県内での生育地はまれであり、将来において存続が心配される。

**【概要】**

川や池の浅い水中に生える抽水植物の一種であり、植物体は地中に分枝する地下茎の先端に株をつくり群生する。葉は2列で数枚が高さ1m、幅1cm前後で、裏側に稜がある。夏前に葉とほぼ同長の花茎に少しばかりの枝を分け、その枝に球状の花序をつけて花が咲く。枝の下部には雌性花序、上部に雄性花序がつく。雌性花序は熟

して径2cm程の球形の集合果となる。国内では北海道から本州、四国、九州に分布し、北半球の温帯に広く分布範囲があるとされる。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内では全県にまれに生育地があって点在している。多くは溜池に生育し、時に大群落が見られる所もある。河川の水辺にも生えることがある。

**【存続を脅かす原因】**

溜池の管理放棄による遷移。立地の乾燥化。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○			○	○				○	○				○	○				

タコノキ目ミクリ科

# ヤマトミクリ

*Sparganium fallax* Graebn.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵 16

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

**【選定理由】**

県内での生育地はややまれであり、多くは生育地の環境変化による植物体の激減が心配。

**【概要】**

川や池の浅い水中に生える抽水植物の一種であり、地中に分枝する地下茎の枝の先端に株を作り群生する。葉は2列に数枚がついて草丈50cmばかりとなり、葉の幅は1cmばかりで裏側に稜がある。夏頃に花が開くが、葉とほぼ同長の茎が伸び、葉腋に球状の花序として多くの小花がつく。下方に雌性花序、上方に雄性花序が数個ずつ

つく。雌性花序のうち下部のものは腋上性で、花序の柄は茎と合着する特性があって、茎の葉と葉の中間あたりに花序がつくように見える。本州の関東地方以西、四国、九州から南はインドにまで分布域があるとされる。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内全域に生育地が点在し、農業用水路や溜池に生える。

**【存続を脅かす原因】**

溜池の管理放棄、河川改修工事などの影響。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○			○	○				○	○				○	○				

タコノキ目ミクリ科

# ナガエミクリ

*Sparganium japonicum* Rothert

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

**【選定理由】**

県内での生育地はまれであって、個体群も小さい。

**【概要】**

川や池の浅い水中に生える抽水植物の一種であり、植物体は地中に分枝する地下茎の枝の先端に株をつくり群生する。葉は線形で2列に数枚が高さ50cmばかりに伸び、幅は1cmばかりで裏側に稜がある。夏頃に葉とほぼ同長の高さに茎が伸び、葉腋に球状の頭状花序を1個ずつつけて花が咲く。下方の数個の花序は有柄で、雌性花序である。上方に無柄の雄状花序がつく。本州から四国、九

州に分布し、朝鮮半島にも分布するものとされる。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内では出雲部から石見部にかけて生育地がまれに点在する。隠岐諸島での生育地については不明である。生育地はすべて農業用の溜池である。

**【存続を脅かす原因】**

溜池の管理放棄による遷移、乾燥化。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○					○					○					○				

カヤツリグサ目カヤツリグサ科

# サツマスゲ

*Carex ligulata* Nees

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

県内のやや海岸寄りの山地林内に生育地が点在するが、昭和60年代頃より生育地が消滅したり、個体数が減少してきて、現状がどの程度か明らかではない。

**【概要】**

山地林内に生える多年草で株となって、草丈50cmばかりとなる。茎の上部には長さ20cm、幅5mmばかりの葉身のある葉を多くつけ、下部では葉身のない葉がつく。葉は白緑色で特徴的である。花は夏前に咲く。雌小穂は長さ3cm前後で柱状、長い苞があり、果胞は倒卵形、長さ

4－5mmで全体に銀白色の毛が密生する。国内では本州の関東南部以西、四国、九州に生え、朝鮮半島、中国、インドにもあるとされる。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内では出雲部、石見部には生育地が明らかであるが、隠岐諸島での生育地は不明である。

**【存在を脅かす原因】**

生育地の遷移による樹林化。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○				○										○			

カヤツリグサ目カヤツリグサ科

# キノクニスゲ

*Carex matsumurae* Franch.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：分布限界種 (北限)

環境省：準絶滅危惧 (NT)

**【選定理由】**

県内での生育地はまれであり、生育地での個体数も多くはない。

**【概要】**

海岸沿いの林内に生える常緑の多年草で、葉はやや硬く、線形で長さ20－30cm、幅1cmばかりで多数が根生して株状となる。花は春早く咲く。稈は高さ30cmばかりで、小穂は4～5個で、頂小穂は雄性である。雌小穂は長さ3cmばかりの柱状で、熟して、帯白色である。柱頭は2岐、果実の頂部の附属体の基部は環状に肥厚する。本州

の関東地方以西、四国、九州に分布し、朝鮮半島にも分布するものとされる。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内では隠岐諸島に生育地が知られていて、石見部海岸にも分布するとされるが、明らかではない。照葉樹二次林内に生えているが個体数はあまり多くはない。

**【存続を脅かす原因】**

樹林伐開による生育地の環境変化。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○															○	○		

カヤツリグサ目カヤツリグサ科

# オオクグ

*Carex rugulosa* Kükenth.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

**【選定理由】**

県内では生育地が限られている。

**【概要】**

川口などの汽水域の湿地に生える植物であり、植物体は地中の分枝する根茎から長さ50cm、時に1m、幅は1cm弱のやや緑白色の葉を数枚つけた株として生え、群生する。花は春早く咲き、新葉が出ると同時に花茎を出し、下部に雌性花序2～3個、上部に雄性花序を1個つける。花序は伸びて30－50cmばかりになる。果実は夏前には熟し、果胞は6－7mmで、この類では大きい方であり、よ

く目立つ。国内では北九州以北、朝鮮半島、中国東北部からウスリーの海岸域に分布する。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内では中海から宍道湖にかけての水辺に生育地がある。中海では群落規模は小さいがほぼ全域に生育地が点在する。大橋川川口付近には優良な規模の大きな群落がある。

**【存続を脅かす原因】**

生育地での遷移による環境変化。河川改修工事などの人為干渉。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○																					○

カヤツリグサ目カヤツリグサ科

# ヒトモトススキ(シシキリガヤ)

*Cladium chinense* Nees

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：分布限界種 (北限)

環境省：—

### 【選定理由】

県内での生育地は海岸に点在するが、いずれも小面積で、個体群も小さいものである。

### 【概要】

塩性湿地から沿海地の湿地に生え、草丈は時に2cm以上になる大形の多年草である。葉は濃い緑で硬く、葉縁も硬く鋸歯状で強くざらつき、猪切茅の名はここにあるのであろう。花は夏に咲き、葉よりも高く花茎を伸ばして、上部の節ごとに多くの枝を分けて房状に多数の小花をつける。アジアの熱帯から中国、南西諸島、本州では

関東以西、能登半島以西に分布するものとされる。

### 【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は石見部から出雲部の海岸に点在して、隠岐諸島の島後に分布の北限がある。海岸の岩棚の水湿地に生える。出雲部では中海にも分布し、水辺から浅い水中に生えて、時にオオクグと隣接して見られる場もある。

### 【存続を脅かす原因】

波浪などによる自然災害。土地改変による生育地の破壊、消滅。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	露岩
○	○	○	○																○			○

ラン目ラン科

# フウラン

*Neofinetia falcata* (Thunb.) Hu

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：—

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

県内では全域に分布する植物であるが、園芸上での採取等によって生育地及び個体数は激減している。

### 【概要】

照葉樹の樹幹や、時に岩上に着生する常緑の草本で、植物体は長い着生根をもち、短い茎に左右2列に葉を互生し、株となって草丈20cmばかりのものである。葉は広線形で内側に折れ、硬く、長さ10cmばかりで、基部は鞘となっていて、鞘の上部に関節がある。初夏の頃に、葉のもとから長さ10cmばかりの花茎を出し、5花程を総状

に咲かせる。国内では関東以西から四国、九州、南西諸島にかけての暖地に分布する。花には芳香があり、古来より栽培する人があって野生品が好まれて採取される。

### 【県内での生育地域・生育環境】

県内には広く生育地が点在し、神社、仏閣の照葉樹古木等に着生がみられ、主幹から支幹さらに小枝にも着いている。

### 【存続を脅かす原因】

着生樹木、樹林の伐倒、倒開と園芸上での採取。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○	○					○					○									

ラン目ラン科

# ヨウラクラン

*Oberonia japonica* (Maxim.) Makino

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：—

環境省：—

### 【選定理由】

県内には広く分布域があるが、生育地はもとも多くなく、その個体数はきわめてまれな状態となっている。

### 【概要】

樹幹、時に岩上に着生するきわめて小型の常緑多年草である。植物体は長さ5cm止まりのもので小さい株になって下垂して生え、葉は扁平で長さ1-2cm、幅3mm程で、左右2列に互生する。花は初夏の頃に咲き、茎頂に長さ5cmばかりの花序を出し、多数の黄褐色の小花をつける。国内では関東以西、四国、九州、南西諸島の範

囲に分布域がある。

### 【県内での生育地域・生育環境】

県全域に生育地は点在している。しかし、各生育地での個体数は多くはない。おもに山林内や神社、仏閣のモミの大木の樹幹に着生するものが見られる。

### 【存続を脅かす原因】

着生樹木及び樹林の伐倒、伐開。園芸上での採取も考えられる。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
○			○	○																		

維管束植物

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

シダ植物ハナヤスリ科

## コヒロハハナヤスリ

*Ophioglossum petiolatum* Hook.

## 【選定理由】

生育する場所もあるが、県下での分布状況の詳細は把握できていない。

## 【概要】

高さ8-25cmの葉を1-3枚出し、担葉体は長さ2-10cm、栄養葉は長楕円形から広卵形、鋭頭から鈍頭、長さ1-6cm、幅0.7-3cm、うすい緑色。孢子穂は長さ2-4.5cmで鋭頭である。

本州（東北地方南部）～南西諸島の各地で路傍、林下や集落内に見られ、しばしば群生する。国外では熱帯か

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

ら暖帯の各地に広く分布している。

## 【県内での生育地域・生育環境】

生育する場所もあるが、県下での分布状況の詳細は把握できていない。いずれにしても県下での生育地は少ないものと考えられる。

## 【存在を脅かす原因】

除草剤散布。

シダ植物ハナヤスリ科

## ハマハナヤスリ

*Ophioglossum thermale* Komarov

## 【選定理由】

採集されたとの報告があるが、県下での分布状況の詳細は把握できていない。

## 【概要】

小型の夏緑性のシダで栄養葉は細長く、線形から卵形で孢子穂は4cmになるものもある。北海道から南西諸島の海岸の湿った砂地から川原などに生育し、シベリア・中国・台湾やマイクロネシアに分布する。また、内陸部の比較的乾燥した場所に生え、栄養葉の幅広い部分が中央より基部にあるコハナヤスリ var. nipponicum があり、こ

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

れは本州・四国・九州と中国・台湾に分布する。

## 【県内での生育地域・生育環境】

県西部で採集されたとの情報があるが、現状は把握できていない。

また近年隠岐でコハナヤスリと思われる個体の生育が確認されている。

## 【存在を脅かす原因】

除草剤散布。

シダ植物シシラン科

## ナカミシシラン

*Vittaria fudzinoi* Makino

## 【選定理由】

県内で採集された標本はあるが、現状不明である。全国的にも希少種であるので自生が確認された場合厳重な保護を必要とする。

## 【概要】

常緑性で、根茎は短く匍匐し、葉は線状で長さ25-45cm、幅3-5mm。葉の表面に中肋が隆起し、その両側に溝がある。孢子囊群は葉縁と中肋の中間の浅い溝に生じる。

本州（奥多摩以西）・四国・九州で、山中の岩上や樹

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

幹に着生するがまれである。国外では中国南西部に分布する。

## 【県内での生育地域・生育環境】

県西部で記録され、採集品も博物館に納められているが、現状は不明である。

## 【存在を脅かす原因】

森林伐採、土砂の堆積、採集。

キンポウゲ目キンポウゲ科

## シマキツネノボタン

*Ranunculus sieboldii* Miq.

## 【選定理由】

県内での生育地の記録があるが、現在での明らかな生育地の確認ができていない。

## 【概要】

やや湿気のある地に生える多年草。茎は地を這うように伸び、白毛が密生し、葉を互生する。葉は長い柄があって3出複葉、小葉がさらに3中～深裂する。花は春から夏に咲き、葉に対生する形で長さ5cmばかりの花柄に花をつける。花弁は黄色、長楕円形で長さ5mmばかり、萼は反曲して咲く。

国内の本州中国地方から四国、九州、南西諸島に分布し

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：分布限界種（北限）

環境省：－

て、さらに中国にも分布するとされる。

県内では出雲部および石見部での一部に生育地があるとされる記録があるが、現在のところ不明であって、消滅したとも思われる。

しかし、県内のその他の地に生育地が確認される可能性が考えられる。

## 【県内での生育地域・生育環境】

生育地が確認できない。

## 【存続を脅かす原因】

生育地が確認できないので、状況が把握できない。



バラ目バラ科

## コゴメウツギ

*Stephanandra incise* (Thunb.) Zebel

## 【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、個体数もきわめて少ないものである。

## 【概要】

夏緑低木で、葉は互生し、三角状広卵形、長さ5cm、幅3cmばかり、大小欠刻状で、重鋸齒縁が特徴的で目立つ。花は経4-5mmの小花、白色で散房花序に多くつける。

国内では、北海道、本州、四国、九州に分布し、国外では朝鮮半島、中国大陆と、広い範囲に分布する植物と

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

される。

## 【県内での生育地域・生育環境】

県内ではきわめてまれであり、旧羽須美村地内江の川の川岸岩崖から河川敷岩上に僅かな個体が知られていたほか、匹見町大神ヶ岳岩崖に数株が生育しているだけの状態である。

## 【存続を脅かす原因】

生育地の自然な遷移による樹林化による消滅が心配される。

バラ目マメ科

## オオバクサフジ

*Vicia pseudo-orobus* Fisch.et Mey

## 【選定理由】

近年、生育地が急激に減少し、生育個体数も激減している。

## 【概要】

山地林縁などに生える、蔓性の多年草。葉は長さ3cm、幅2cmばかりの小葉を5-8ほどつける。羽状複葉を互生する。

## 【県内での生育地域・生育環境】

山地林縁、時には耕作地周辺に生えたが、近年はまったく見られない。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

## 【存続を脅かす原因】

林縁の刈り込み等の管理放棄により、生育地の適地の消失。

ツツジ目イチヤクソウ科

## シャクジョウソウ

*Monotropa hypopitys* L.

## 【選定理由】

県内での生育地は限られているように思われるが、県全域での生育地や個体数について状況が明らかでない。

## 【概要】

山地林内に生える腐生の多年草である。植物体は茎が高さ20cmばかりに地上に伸び、少しばかりの鱗片葉をつけ、全体が淡黄褐色である。夏前に、茎の先の総状花序に5-6個の花を下向きにつける。萼片、花弁ともに4枚で長楕円形、長さ1cmばかり、花後、果実は上向きに立ち上がる。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

国内では北海道から本州、四国、九州に生え、北半球の温帯域に広く分布域があるとされる。県内では山地のコナラ林内などに時折り生育個体をみるが、県内全域での生育地や個体数がどの程度であるのか情報不足である。

## 【県内での生育地域・生育環境】

生育地が安定して確認できないので、状況が把握できない。

## 【存続を脅かす原因】

前記の状態にあって、不明である。

シソ目シソ科

## キセワタ

*Leonurus macranthus* Maxim.

## 【選定理由】

生育地は明らかに減少していて、その現況が明らかでない。

## 【概要】

山地の草地に生える夏緑性の多年草であり、草丈は1m程になる。茎は4角で、狭卵形で長さ7-8cm、幅5cmばかりの葉を対生する。花は夏に咲き、茎の上部で葉腋に紅紫色の花を数個ずつつけて咲く。花冠は筒状、唇形で、下唇の中央裂片は下方に強く曲がる。花冠は密に白い毛があるのが特徴的である。

国内では北海道から本州、四国、九州に分布して中国

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵 16

大陸に分布が続くものとされる。昭和60年代には出雲部山地に生育地が点在していて、県内に広く生育地が存在していたと思われるが、その今まで知られていた生育地はすべて消滅していて、県内での分布状況はまったく明らかでない。

## 【県内での生育地域・生育環境】

前記の状態にあって、生育地は安定した場所ではないようである。

## 【存続を脅かす原因】

生育環境が安定しないことによる環境変化。

シソ目ナス科

## アオホオズキ

*Physalisstrum savatieri* (Makino) Makino

## 【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれであり、個体数もまれである。

## 【概要】

山地のやや陰湿な地に生える。草丈40-50cmほどの柔らかい多年草。葉は長楕円形、長さ10cm、幅4-5cmばかり。葉の腋に1-2個の淡緑色の花をつけ、1-2cmの卵形、緑色の果実をつける。

## 【県内での生育地域・生育環境】

生育地がまれで、確認できない。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【存続を脅かす原因】

遷移。

シソ目ナス科

## オオマルバノホロシ

*Solanum megacarpum* Koidz

## 【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれであり、個体数もまれである。

## 【概要】

国内では、本州中部地方以北、北海道などの山地の湿原に生える蔓性多年草。

## 【県内での生育地域・生育環境】

県内では生育地が、三瓶山麓「浮布の池」畔などに以前から知られていた。この「浮布の池」のものは近年、調査は充分とはいえないが、個体数はきわめて少なく、

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

絶滅寸前の状態である。

## 【存続を脅かす原因】

遷移。

シソ目タヌキモ科

## イトタヌキモ(ミカワタヌキモ)

*Utricularia exoleta* R.Br.

## 【選定理由】

減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池や休耕田の保全・管理が年々行われなくなっている。

## 【概要】

本州と九州の湿地や溜池、水田などに生育する。茎はごく繊細な糸状で直径1mm以下、盛んに分枝して絡み合いマット状になる。花茎は長さ5-15cmで褐色、花は淡黄色で大きさ3-4mmほど。

## 【県内での生育地域・生育環境】

これまでのところ宍道湖北岸の溜池と休耕田の湿地で

島根県：情報不足DD

島根県固有評価：-

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

観察例があるが、全県的な調査は行われていない。

## 【存続を脅かす原因】

農業形態の変化による溜池の管理不足と水田の乾田化。

キキョウ目キキョウ科

## バアソブ

*Codonopsis ussuriensis* (Rupr. et Maxim.) Hemsley

## 【選定理由】

県内ではきわめてまれな植物で、個体数もどれ程のものかも把握されていないように思われる。過去において標本が得られた場所での調査でも、まったくこの種の生育を確認することはできていない。

## 【概要】

山地林縁などに生える多年草の蔓草。ツルニンジンに似た草であるが、全体に白毛があり、塊根は球形で花は小さい。

日本から朝鮮半島、中国東北地方などに分布域がある

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ものとされるが、もともとまれな分布の植物とされるようである。

## 【県内での生育地域・生育環境】

生育地が確認できない。

## 【存続を脅かす原因】

遷移。

キキョウ目キク科

## ムラクモアザミ

*Cirsium maruyamanum* Kitamura

### 【選定理由】

県内での生育地はまれであって、生育地での個体数も少なく、県内全域での分布状況が明らかではない。

### 【概要】

山地の林縁や草地の水湿地から水田の傍などの水湿地に生える夏緑の多年草。根生葉は長楕円形で長さ20-30cm、幅10cm程で、羽状に中、深裂する。花は夏に咲き、高さ30-50cmばかりに花茎を伸ばし、上部で2-3の枝を分けて、先に頭花が点頭してつく。国内の中国地方山間のみ分布する植物とされる。マアザミとノアザミの

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：-

自然雑種起源の植物ともされ、県内ではおもに出雲部中国山地沿いの地にまれに生育地がみられるが、個体数はきわめて少ない。石見部にも分布の可能性があるが、はっきりとした生育地の情報はないようである。

### 【県内での生育地域・生育環境】

現在での生育地が確認できない。

### 【存続を脅かす原因】

遷移による生育地の消滅。

キキョウ目キク科

## ミヤコアザミ

*Saussurea maximowiczii* Herder

### 【選定理由】

県内では以前にはかなりあちこちに生育地があったが、近年急激に減少し、絶滅が心配される。

### 【概要】

山地林縁など草原状地に生え、草丈50-100cmになる多年草。葉は長楕円形で長さ20-30cmばかりで羽状深裂。花(頭花)は秋に咲き、径1cmばかり、散房状に多くつける。

国内では西日本、国外では朝鮮半島、中国東北部にかけて分布域がある植物とされる。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生育地域・生育環境】

現在での生育地が確認できない。

### 【存続を脅かす原因】

遷移による生育地の消滅。

イバラモ目イバラモ科

## トリゲモ

*Najas minor* L.

### 【選定理由】

除草剤の影響のほか、減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池や側溝の保全・管理が年々行われなくなっている。

### 【概要】

本州、四国、九州の湖沼、溜池、水田、溝などにまれに産する1年生の沈水植物。オオトリゲモよりも全体が小形で、葉の長さは1-2cm。葉の大きさには変異があるので、オオトリゲモとの確かな識別は、雄花の葯室の数が1室(トリゲモ)か、4室(オオトリゲモ)かによる。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【県内での生育地域・生育環境】

不明。

### 【存続を脅かす原因】

除草剤の使用及び農業形態の変化による溜池の管理不足と水路のコンクリート化。

カヤツリグサ目カヤツリグサ科

## アブラシバ

*Carex satzumensis* Franch.et Savat.

### 【選定理由】

県内での生育地はまれに知られるが、その場の遷移によって消滅することがあって、長続きする生育地は無いようである。

### 【概要】

山地の裸地に生える多年草。草丈10-20cmばかり。花序は円錐形で多くの小穂をつけ、上方に雄花穂、下方に雌花穂をつける。

国内では本州の東北地方南部から四国、九州に分布するとされる。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵 16

### 【県内での生育地域・生育環境】

県内では東部及び中部に生育地が知られている。生育地は山地の草原状地や露岩状地である。

### 【存在を脅かす原因】

遷移による生育地の消滅。

ラン目ラン科

# ハクウンラン

*Vexillabium nakaianum* F. Maek.

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地の個体数も多くはない。

**【概要】**

山地樹林内に生育するやや小型の植物で、茎のもとは方に地に這い、上部はやや立ち上がる形態である。葉は卵円形で径5mm程で互生する。花期は夏であり、茎頂部に白～淡桃色の小花を数個つけて咲く。

国内でのこの種の分布は本州、九州で、さらに朝鮮半島にも分布域があるものとされている。

**【県内での生育地域・生育環境】**

県内での生育地は隠岐（島後）の一部にのみ知られていて、照葉樹林域の二次林であるウラジロガシ萌芽林内である。この種の二次林は島内に同じような状態の地は多くあり、この種の植物の生育立地は広く認められるように思われるが、生育地はきわめて少ない状態である。

**【存続を脅かす原因】**

樹林伐開による生育地の乾燥化。園芸上での採取。

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

## 1. 蘚類

鳥根県は、東部の安来市から西部の益田市までのおよそ200kmにわたる細長い本土部と東経133°北緯35°付近に浮かぶ隠岐諸島から成っている。本土部分の南部には中国山地が連なっており、鳥取・広島・山口の各県と接している。これらの山地には豊かな山林が育っている。鳥根県の蘚苔植物についての総括した報告書は見当たらないが、西中国山地の植物に関する学術報告（1966）によると、「本地域に産する蘚苔植物以上の植物は、蘚類200余種・苔類100余種・シダ植物90余種・裸子植物12種・被子植物750種である。これは広島・鳥根県下に産する全植物数の2/5ぐらいにあたるのではないと思われる」と記載されている。調査地域が標高350m内外から最高1,346mの範囲であって、低海拔の溪谷部には、温帯性植物が多く、蘚類においてもマゴケ亜綱の多くの蘚類が群落を形成して生育している。しかしながら、これらの群落の中には、暖帯系や亜高山系の蘚類が混在していることが報告されている。例えば、フジハイゴケ、チャボスズゴケ、コセイタカスギゴケなどの群落がみられる。また、低海拔の溪谷には、暖帯系蘚類のソリシダレゴケ、ムジナゴケ、ナワゴケなどが観察されている。そしてまた、山頂付近には亜高山地帯に生育しているクロゴケが、溪谷の森林内にはイワダレゴケ、タチハイゴケ、マキハヘチマゴケなどの群落が観察されている。また、山地の森林の林床には、オオミミゴケの群落がみられる。この種はシキムヒマラヤ、台湾、日本西南部の高山に飛び石的に分布している蘚類で、亜高山帯でも稀にみられ、中国地方では珍しい蘚類である。クロゴケは県東部の標高950mの岩上にも生育していることが報告されている。イワダレゴケは出雲部と石見部の境目にそびえる三瓶山の原生林内の腐植土上にフサゴケやフトリュウビゴケと共に大きい群落を形成している。県内には平地から標高1200mまでの間に強い酸性（pH 3.4-5）の多湿地が点在しており、そこには北岡極要素のオオミズゴケ、ハリミズゴケの2種が、また水のしみ出る岩壁面や岩棚には熱帯要素のホソベリミズゴケが県下5カ所で観察されている。このホソベリミズゴケは懸崖性のミズゴケである。また、県内には溪谷や滝が多くみられるが、水しぶきのかかるような岩上にはクマノゴケが生育しているところが数カ所あるが、量的にはきわめて少ない。鳥根県は林業県でもあるが植林されたスギ林のスギの切り株上に生育しているハイゴケやトヤマシノブゴケの中にウチワチョウジゴケが観察されることがある。この仲間は配偶体の葉や茎が退化し、孢子体だけが生育するというまれなコケである。県内には神社仏閣が多い。石垣上にはギボウシゴケ、ヒジキゴケ、ミノゴケなどが、砂をひいた地上にはヤマトフデゴケ、ヒョウタンゴケ、シモフリゴケ、スナゴケ、やや湿った地上にはトサカホウオウ

ゴケ、コバノチョウチンゴケ、ツルチョウチンゴケなどがみられる。境内にはスギの大木があり、その基部にはホソバオキナゴケ、カガミゴケなどが群落を作っている。山間部にある神社仏閣の石垣の隙間には、エビゴケ、アブラゴケが日陰のやや湿った地上や腐葉土上にはヤノネゴケ、ヒメハイゴケなどがみられる。県内のある古刹（寺院）での蘚類調査によると、スギゴケ科3属3種、ギボウシゴケ科3属5種、ヒラゴケ科1属3種、シノブゴケ科2属3種、アオギヌゴケ科5属8種など21科35種51種の生育が報告されている。この古刹（寺院）での優占種をみると、地上ではウマスギゴケ、クロツリバリゴケ、アオシノブゴケ、トヤマシノブゴケ、ホソバオキナゴケ、ハイゴケなど、石垣や石灯笼の上ではギボウシゴケ、ヒジキゴケ、ネジクチゴケなどである。

## 2. 苔類・ツノゴケ類

県内産の苔類・ツノゴケ類に関する記録は鳥根県自然保護基本調査・中間報告（1972）で益田市高島の苔類・ツノゴケ類16種、第33回日本生物教育会全国大会記念誌「鳥根の生物」（1978）に113種、大万木山の蘚苔類（その1）（岡本、1975）に20種、「日本産苔類図鑑」（井上、1974、1976）に30種、「鳥根県大百科事典」山陰中央新報社刊（1982）に図解49種、同属種43、隠岐諸島の苔類（井上、1985）に72種がある。これら、県内産の苔類・ツノゴケ類については、「鳥根県産のタイ類・ツノゴケ類」（下瀬、2011）に、まとめられている。

これに未発表の資料を加えてまとめた県内産苔類は31科56属152種、ツノゴケ類は2科5属7種となっている。これは日本産苔類の総種数の約1/4。ツノゴケ類は約1/2にあたる。目種別にしてみると、ウロコゴケ目117種、コマチゴケ目1種、フタマタゴケ目17種、ゼニゴケ目17種となっている。植物体の茎や葉の区別が明瞭なウロコゴケ目のコケが約8割を占めている。ツノゴケ類7種はツノゴケ目。

井上（1985）は隠岐諸島の苔類フロラで特記すべきこととして、典型的な周極要素（寒地系）と目されるものが1種も含まれていないこと、また特異な点として、県内の他地域では知られているゼニゴケ属が隠岐諸島では完全に欠如していることが指摘されている。ゼニゴケ属のコケはどの種も鼓形が多細胞の無性芽を作ることはよく知られている。この無性芽が履き物などに付着して運ばれる可能性は強い隠岐諸島であるが、どんな環境要因がゼニゴケの進入を阻むのか興味深い課題である。

コケ植物の分布に大きく影響するのは、気温や水分・湿度であることは高等植物と同じであるが、植物体が小さいコケは微細な気候的な条件にも支配されやすいという。また、コケは着生基物に支配され基物によって着生する苔類も異なる。この地

方に多いヒメトサカゴケのように岩上、崖面、樹幹、朽木と着生基物が多様なものもある。

隠岐諸島の藓類は、県内の他地区の低地や山地の藓類と共通している。このことは沿岸部の常緑広葉樹林、背後に中国山地の落葉広葉樹林帯の山地をかかえている県東・中・西部地区の藓類に大きい相違はないように思える。

県内産の藓類を隠岐諸島に準じて3つの分布型にまとめてみると次のようになる（この中には隠岐諸島の藓類も含めてある）。

(1) 東南アジアとの共通種（この地域の種が分布域を北上させて、県内にも分布しているグループ）

特に気温と湿度の影響を強く受けている種が多い。このグループは国内では、最寒月の平均気温5℃の等温線より南に東南アジアの藓類と共通なものが多いという。県内では沿岸部で浜田5.8℃、益田5.4℃でわずかに上回り、松江4.2℃、隠岐西郷は4.4℃でおよばない。温度だけでみると県東部より西部に東南アジア系のコケが多いように考えるが、藓類の分布に影響する他の要因が働く。県内で最も平均気温が高い高島(益田市沖)では、クサリゴケ科のミヤジマヨウジョウゴケ、ナガシタバヨウジョウゴケの生育が確認されている。これらは太平洋沿岸で

は前者が静岡県まで、後者は関東地方まで北上してきている。どちらも樹幹や生葉に着生する小さな茎葉苔。

その他生葉上苔のカビゴケ、フルノコゴケ、シゲリゴケ、コムチゴケ、ヒラキバヤスデゴケ、シフネルゴケ、ヤマトフタマタゴケ、ヤワラゼニゴケなど29種。

(2) 東アジアとの共通点（日本、中国、朝鮮半島、ヒマラヤなどに分布を広げているグループ。日本固有種も含まれる。）

ヒメミノリゴケ、ムチゴケ、ミヤコノケビラゴケ、トサノケクサリゴケ、ケシゲリゴケ、クモノスゴケ、カンハタケゴケ、チジミカヤゴケ、チャボマツバウロゴケ、フタバネゼニゴケ、ジンガサゴケなど95種。

(3) 北半球の広分布種（温帯・冷温帯、世界的分布も含める）

ミドリゼニゴケ、ウスバゼニゴケ、ケゼニゴケ、ホソバミズゼニゴケ、チャボホラゴケモドキ、フクロヤバネゴケ、タマゴバムチゴケ、トサカゴケ、ヒメトサカゴケ、ホソバコオゴケ、ヒメハネゴケ、エゾヒメヤバネゴケなど28種。

(下瀬 敏)

〔注〕種解説の学名については、原則として、「日本の野生植物－コケ－」(岩月編, 2001)に従った。

## 藓苔類掲載種一覧

計11種

### 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

・カビゴケ 1種

### 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

○ハリミズゴケ ↓クマノゴケ 2種

### 準絶滅危惧 (NT)

↓オオミズゴケ ↓ウキゴケ (カズノゴケ) ・ホソバハリミズゴケ  
・クロゴケ ・イチョウウキゴケ 5種

### 情報不足 (DD)

○ケクラマゴケモドキ ○ホソクラマゴケモドキ ◆ヤワラゼニゴケ 3種

#### 【記号説明】

- ・：カテゴリー区分変更なしの種（4種）
- ↑：上位のカテゴリー区分への変更種（0種）
- ↓：下位のカテゴリー区分への変更種（3種）
- ：新規掲載種（3種）
- ◇：情報不足からの変更種（0種）
- ◆：情報不足への変更種（1種）

ウロコゴケ目クサリゴケ科

# カビゴケ

*Leptolejeunea elliptica* (Lehm. et Lindenb.) Schiffn.

島根県:絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

写真 口絵17

島根県固有評価:—

環境省:準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

生葉上苔類の1種で、温暖で湿潤な地域の常緑広葉樹やシダなどの葉上に生育する。植物体が微小で大気乾燥や汚染など環境変化の影響を受けやすく、近年各地で急速に減少している。環境省によるカテゴリーでは準絶滅危惧に指定されている。

## 【概要】

茎葉体の大きさは長さ5-10mm、幅は葉を含めて1mm未満。茎は基物の葉上をはい不規則に分枝している。長さ0.4mmの長だ円形の葉には、大型の油体をもつ眼点細胞が散在したり、鬼の面のような形をした腹葉などの特徴をもつが顕微鏡でないと種の同定は困難。しかし、生育地では独特な香りを放ち、その存在を知ることができる。南方系の苔で国内では福島県以南のおもに太平洋側に分布。

## 【県内での生育地域・生育環境】

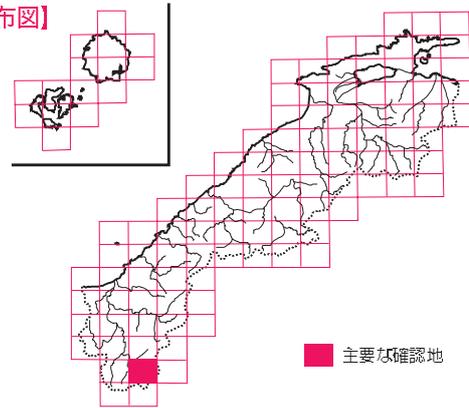
沢沿いの山林内。湧水のある岩棚にミズゴケが生育す

る湿潤な大気環境。樹の枝やササの稈などに着生。

## 【存続を脅かす要因】

樹木伐採、大気環境の変化。

## 【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
		△		○																		

蘚苔類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧 I 類

絶滅危惧 II 類

準絶滅危惧

情報不足

ミズゴケ目ミズゴケ科

# ハリミズゴケ

*Sphagnum cuspidatum* Hoffm.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵 17

島根県固有評価：—

環境省：—

**【選定理由】**

これまで県東部の1ヵ所で標本が採集されているが、その生育地は道路工事により消失した。最近になって県中部において新たな生育が確認されている。中国地方における生育は、県中部のものと、山口県内での記録があるのみであり、生育地はきわめて少ない。

**【概要】**

植物体は淡緑色で、大きさには変異が大きい。茎葉は舌状三角形、先端はやや鋭く鋸歯をもつ。枝葉は長卵形である。国内では、北海道から九州の中間～高層湿原などに生育する。

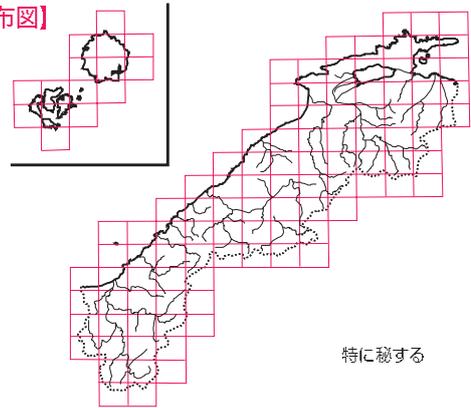
**【県内での生育地域・生育環境】**

県中部の限られた場所でのみ確認されている。生育環境は、溜池の中および水際の過湿な場所である。その他の地域での生育は不明である。

**【存続を脅かす原因】**

土地造成、道路工事などによる生育地の消失。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	溜池	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○												○									

マコケ亜綱キセルゴケ目キセルゴケ科

# クマノゴケ

*Theriotia lorifolia* Card.

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵 17

島根県固有評価：—

環境省：準絶滅危惧 (NT)

**【選定理由】**

生育地も限定されているうえに、量的にもきわめて少ない。環境省によるカテゴリーでは準絶滅危惧に指定されている。

**【概要】**

植物体はイクビゴケに似ているが、クマノゴケの地は川の水しぶきがかかるような岩石に付着して生育している。植物体は黒緑色で、葉は多層の細胞から成り立ち、葉緑体のある細胞層とない細胞層が明瞭に分かれている。国内では本州～九州にかけて生育している。

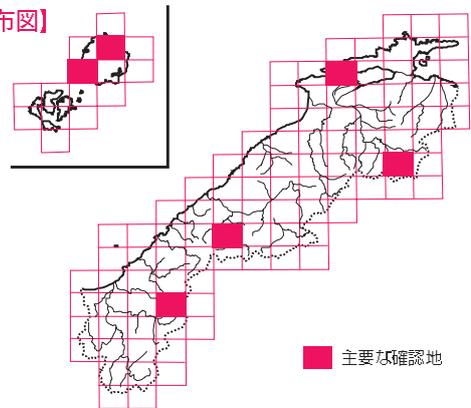
**【県内での生育地域・生育環境】**

県東部～西部・隠岐（島後）の限られた地域の川筋で水しぶきがかかる岩上に生育しているが、量的にはきわめて少ない。

**【存続を脅かす原因】**

観光客による踏み荒らし、川の改良工事によるコケ植物体の付着した岩石の埋没。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	庭園	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○													○									



ミズゴケ亜綱ミズゴケ科

# オオミズゴケ

*Sphagnum palustre* L.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵 17

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

ガーデニングの普及とともに採取され、量的に減少しつつある。また、土地整備のために埋め立てられ生育地の減少が見られる。環境省によるカテゴリーでも準絶滅危惧に指定されている。

## 【概要】

植物体は緑色～黄褐色で、乾燥すると乳白色になる。茎の頂端付近では多くの枝が生ずる。国内では北海道～九州の各地に生育している。

## 【県内での生育地域・生育環境】

県東部・中部・西部の限られた範囲の地域に生育している。これらの生育地は酸性 (pH3-4.5) の強い多湿地であり、民有地の田圃の畦・溜池・谷筋などで生育している。

## 【存続を脅かす原因】

ガーデニングによるオオミズゴケの利用、道路整備・土地の利用のための埋め立てによる生育地の減少。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	溜池	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○			△			△	○	△			○									

ゼニゴケ目ウキゴケ科

# ウキゴケ (カズノゴケ)

*Riccia fluitans* L.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵 17

島根県固有評価：－

環境省：－

## 【選定理由】

低地のきれいな水辺に生育する葉状苔類で、水質汚濁の指標生物となっている。県内における生育地は限定されている。

## 【概要】

葉状体はへん平で線状。大きさは1-5cm、幅1mm未満。規則的に二又状に枝分れする。湧き水の流れ込む池や休耕田の水中に生育する。また、水田などの湿った土の上に生育する陸生型と呼ばれるものもある。陸生型は葉状体の幅が狭く、厚みがあって丸みを帯びる。雌雄同

体であるが生殖器や胞子体をつけることはきわめてまれで、国内でも胞子体は陸生型のみ知られている。胞子体は葉状体の組織内にうずもれたまままで熟す。

## 【県内の生育地域・生育環境】

生育地は山地からの湧き水が流入する休耕田や溜池で、いずれも水生型。葉状体は絡まり寄り集まって群生していた。

## 【存続を脅かす要因】

水質汚濁、農業散布、水路の改修など。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	休耕田	森林	草原	農地	河川	湖沼	溜池	林地	草地	砂浜	河口
○			○										○						○				

ミズゴケ亜綱ミズゴケ科

# ホソベリミズゴケ

*Sphagnum junghuhnianum* subsp. *pseudomolle* (Warnst.) H. Suzuki

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵 17

島根県固有評価：－

環境省：情報不足 (DD)

## 【選定理由】

東南アジアから日本の中部地方まで分布している南方系でしかも懸崖性のミズゴケである。一度、群落の剥離や脱落が生ずると、現状の回復はなかなかできない。

## 【概要】

植物体は淡緑色～黄褐色で、乾燥すると乳白色になる。国内では九州～本州 (中部地方まで) に生育している。

## 【県内での生育地域・生育環境】

県東部の雲南地域、県中部、県西部、隠岐諸島のごく限られた地域に生育している。

## 【存続を脅かす原因】

植物体の採取による生育量の減少。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	岩壁	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○					○														

蘚苔類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

クロゴケ亜綱クロゴケ科

# クロゴケ

*Andreaea rupestris* Hedw. var. *fauriei* (Besch.) Takaki

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

高地の日当たりのよい岩上や岩の割れ目に生育している高山性の藓類であるが、島根県における生育地や生育量はきわめて少ない。

### 【概要】

茎は立ち、1 - 2 cmの大きさで、色は黒褐色である。乾いた岩上に生育しているものを指で触ると、すぐにボロボロにちぎれる。葉は卵状長楕円形で中肋はなく、葉身細胞の背面には大きなパピラがある。国内では北海道～九州の高山で生育している。

### 【県内での生育地域・生育環境】

雲南地域の高山、県西部の特定の高山の山頂近くの岩上、または、岩の割れ目で生育している。

### 【存続を脅かす原因】

登山者などによる踏み付け。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域							
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
△			△																				

ゼニゴケ目ウキゴケ科

# イチョウウキゴケ

*Ricciocarpos natans* (L.) Corda

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵17

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

水田や池などの水面に浮遊する葉状苔類。農薬散布などの影響で全国的に激減し、環境省によるカテゴリーでは準絶滅危惧に指定。県内でも生育地や生育量は著しく減少している。

### 【概要】

水面に浮遊する葉状体は長さ1 cm前後のイチョウの葉に類似したものになる。葉状体は先端が二又状に分岐し、成長すると中央部で分割して2個体になる。また、泥土状に生育するものは分岐した葉状体がのびてロゼット状

になっている。県内産のイチョウ形の葉状体は有性生殖もして胞子体がつくられ、葉状体が分裂するとき胞子は水中に分散する。分布は全世界的で、国内でも北海道から南西諸島まで低地の水辺に分布する。

### 【県内での生育地域・生育環境】

県全域の水田に分布するが、生育地域や生育個体数は水質との因果関係が深い。

### 【存続を脅かす要因】

過剰な農薬散布。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○	○							○							○			○		

ウロコゴケ目クラマゴケモドキ科

## ケクラマゴケモドキ

*Porella fauriei* (Steph.) S. Hatt.

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

ブナ帯以上の地域に生育する種であり、恐羅漢山周辺での分布記録があるが、県内での生育状況は不明である。

### 【概要】

植物体は黒緑色、茎は長さ3～5 cmで、羽状に分枝する。葉の背片は広卵形で、先に数個の歯がある。腹片は広舌形で、縁には数個の歯がある。国内では、北海道、九州のブナ帯以上に生育する。

### 【県内での生育地域・生育環境】

恐羅漢山周辺で生育の記録がある。

ウロコゴケ目クラマゴケモドキ科

## ホソクラマゴケモドキ

*Porella gracillima* Mitt.

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

ブナ帯以上の石灰岩地に生育する種であり、県内ではかつて鱒淵寺で標本が採集されているが、現在の生育状況は不明である。

### 【概要】

植物体は淡緑色、茎の長さは2 cmで分枝は少ない。葉の背片は卵形、腹片は舌形である。国内では、北海道から九州のブナ帯以上の石灰岩地に生育する。

### 【県内での生育地域・生育環境】

出雲市内の鱒淵寺において標本が採集されている。

ゼニゴケ目ヤワラゼニゴケ科

## ヤワラゼニゴケ

*Monosolenium tenerum* Griff.

島根県：情報不足 (DD)

写真 口絵17

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

熱帯アジアに分布する南方系の葉状苔類、1属1種で1科をなす特異な種。1960年頃から県内での生育は知られているがきわめてまれ。環境省によるカテゴリーでも絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。

### 【概要】

葉状体は鮮緑色で、大きさは2～4 cm、幅5～8 mm。葉状体の組織の分化や気室も気孔ない変わりもの。ルーペで葉状体の表面を見ると、白灰色の斑点（油体）が多数ちらばっている顕著な特徴を持つので他の葉状苔類と

区別できる。雌雄同体で葉状体の先端近くに、盤状の雌器托やこぶ状の雄器托をつける。国内では関東地方以南に分布し、人家付近の湿土上や植木の圃場、温室などに生育する。

### 【県内での生育地域・生育環境】

栄養分の豊富な地面。生態的には窒素分を好み人為的な環境に生育。かつては公園内の側溝の壁などにも生育していた。

### 【存続を脅かす要因】

生育環境の変化。

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

# 概説

RED DATA BOOK

## 海藻類(藻類)

海藻とは「海に生育する藻類の仲間」ですが、海水中に生育し、光合成によって独立栄養を営む有胚植物を除いた葉状の植物である。肉眼的な大きさが大型の底生海産藻類であり、顕微鏡で見るとような生物は除外している。

これまでの海藻の分類は1800年代から提唱されてきた分類群「緑藻」「褐藻」「紅藻」によって、定義されてきたが、今日では「藻類」の大分類群の中に海藻が位置づけられるようになった。例えば「緑藻」は藻類の分類中、緑藻植物門、「褐藻」は黄藻植物門、「紅藻」は紅藻植物門というようにである。

ここでは、話が難しくなるので、従来の「海藻類」の定義で進めたいと思う。日本の沿岸域には約1400種類の海藻類が生存しているが、海藻の地理的分布は沿岸を流れる海流の影響を強く受ける。寒流の流れる北海道ではコンブなど亜寒帯性海藻が、黒潮暖流の影響が強い南西諸島ではカサノリ、ガラガラ類などのいわゆる亜熱帯性海藻がよく生育している。これらの中に位置する本州沿岸では暖流と寒流の両方の影響を受けてカジメやヒジキなどの温帯性海藻が生育している。本州の日本海側は太平洋側の海藻相に似ているが、干満の差が少なく、冬場の潮位が年間を通して一番低いこと等、潮間帯の海藻植生は貧弱なのが特徴である。

島根県沿岸域の海藻植生は、海水の透明度が高い事もあって光合成活動に適しており、かなりの水深まで海藻類が豊富に繁茂している。特に、岩礁部の垂直に落ちている岩面にはアラメ

やカジメが海藻の林を形成し、サザエ類の恰好の生息場として機能している。海底には2~4mの長さのホンダワラ類がよく繁茂するとともに、冬から春にかけてはワカメがいたるところで生育している。

島根県には、全国でも数カ所しか生育が確認されていない貴重な海藻が認められ、海藻類の中では唯一、国の天然記念物に生育地が指定されているクロキヅタがある。隠岐諸島の島前に位置する西ノ島の別府湾の近くに黒木御所跡（後醍醐天皇が隠岐島に流刑された地、順徳天皇の佐渡島での行在所と同名）があり、この御所の前の海で珍しい海藻が採集され、その後この地名をとってクロキヅタと命名された。大正11年3月3日、国の天然記念物にその生育地が指定されている。このクロキヅタの学名は、*Caulerpa scalpelliformis* var. *scalpelliformis* といって学名中に、var.と記載されており、紅海に生育している変種として扱われている。クロキヅタは隠岐諸島の中でも非常に分布が限られており、広範な分布調査を行う必要があると思われるが、現時点で生育している周辺の海域に、クロキヅタの繁殖が拡大する傾向はないように思える。従って、現在生育している地域の保護が必要であると考え、海藻類では唯一、レッドデータブックに絶滅危惧Ⅱ類として記載した。種解説の学名は原則として新崎（2002）によっている。

(秋吉英雄)

### 海藻類掲載種一覧

計 1 種

#### 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

- ・ クロキヅタ

1 種

#### 【記号説明】

- ・ : カテゴリー区分変更なしの種 (1種)
- ↑ : 上位のカテゴリー区分への変更種 (0種)
- ↓ : 下位のカテゴリー区分への変更種 (0種)
- : 新規掲載種 (0種)
- ◇ : 情報不足からの変更種 (0種)
- ◆ : 情報不足への変更種 (0種)

## クロキヅタ

*Caulerpa scalpelliformis* (Turner) Agardh var. *scalpelliformis*

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵18

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

隠岐諸島西ノ島の黒木御所跡近くの浅海で日本で最初に発見され、それにちなんでクロキヅタと命名された。海藻類としては唯一、国の天然記念物に生育地域が指定(大正11年)されている。

隠岐諸島以外では愛媛県と高知県に分布をみるのみで、南西諸島にはアマミノクロキヅタがある。隠岐諸島においても分布は非常に限られており、潮流と海底質との微妙なバランスの上で繁殖しているものと思われ、防波堤の建設などによる海水の汚濁によって生育地域が減少傾向にあると思われる。

## 【概要】

体は匍匐する円柱状の茎状部と下方に繊維状の仮根を認める。匍匐枝の上方には、幅1-2cm、高さ10-20cmの緑色の平たいりボン状の葉状部が分岐しないで直立している。葉状部の縁は鋸のようなギザギザの切れ込みがあるのが特徴である。

## 【県内での生育地域・生育環境】

島根県では隠岐諸島でのみ生育が確認されている。天然記念物の地域保護指定地になっている隠岐諸島西ノ島の別府湾、黒木御所跡周辺、中ノ島海士町菱浦湾周辺のほか島後での繁殖は確認している。生育環境は実にさまざま、砂礫質の浅い海底2mでは、砂に埋まってる岩上を中心として砂地上に匍匐枝を伸ばして、直径2-3mのコロニーを形成しているが、防波堤のコンクリート面や船の係留ロープ、直径50cmほどの転石上にも集団を作っており、水深30cmから2mの深さの冬場の波の影響を受けにくい場所で繁殖しているものと思われる。

## 【存続を脅かす原因】

沿岸域の埋め立ておよび生活廃水などの流出による海水の汚濁。漂着ゴミによる生育環境の悪化。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域							
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	海中	
			◎																				○

地衣植物は、菌類と藻類で構成された共生体であり、適当な光と湿度を好み安定した環境条件のもとで生育している種が多い。地衣体を形成する菌類や藻類は、殆ど自然界では単独に生育していることはなく、いったん地衣植物種が絶滅すれば、これらを構成する菌類種や藻類種も絶滅してしまうことになる。繁殖法も粉芽、裂芽や地衣体断片など無性繁殖器官によって行なわれるため、繁殖するにはこれら粉芽や裂芽等が母体から離れ、新しい場所へと分散していく。それらのうち生育可能な条件をもつ樹皮や、やや風化した岩上などに到達したものだけが若い地衣体を構成することができる。また地衣類の種によって生育できる着生基盤は決まっていることが多く、どのような植物の樹皮が石灰岩上か花崗岩上か蛇紋岩上かなど種による特異性が強い。このため絶滅が危惧されている地衣植物の多くはこのように特異性が強く、少しの環境条件の変化でも生育できなくなる種が多い。最近の自然林の伐採や酸性雨など大気汚染の激しい地域ではこれら地衣植物は激減し、絶滅が危惧される。また、光条件として、絶滅が危惧されている種の多くは直射日光ではなく、樹冠などを通して降り注ぐ散乱光が最も有効であり、ブナやカエデ、ナラ林など落葉広葉樹林や針葉樹林などの樹皮や岩上に着生していることが多い。

鳥根県の植生と地衣植物との関係を調べてみると、低地域の社寺林ではスダジイを優占種とした森林がよく保全されている。山間部では、森林構成種としてウラジロガシやアカガシ等常緑広葉樹林が優占種となることが多いが、地衣植物の生育する条件としては、やや光不足で大型の地衣植物相は貧弱である。その中でも出雲市に位置する鰐淵寺の社寺林は、適当な光と側を流れる小河川から供給される水蒸気によって高い湿度が絶えず保たれている。そのため地衣相の豊富な森林となっている。その他アカマツやクロマツを主とした出雲大社の社寺林では直径50cmを超える古木が多く地衣類や蘚苔類の着生種も豊富である。しかし、このようなクロマツやアカマツ林は、大気汚染やマツクイムシ等の影響で森林生態が大きく変化している。鳥根県地方も例外ではなく、そのような地域の樹木に着生していた地衣植物も現在ではその姿を消しつつある。また、地衣植物が最も好む森林環境としてブナ林があるが、鳥根県では赤来町や中国山地沿いに残存している程度で小規模であり、地衣植物もあまり期待できないのは残念である。鳥根県において地衣植物相の最も豊富な地域として隠岐諸島がある。本県での貴重な種の殆どは大満寺山、鷲が峰など海拔300mを超える山中に生育するクロバ、ヒメコマツ、イタヤカエデ、カツラ、などの樹皮に着生している。その他五箇村岳山、西ノ島町の焼火山神社の暖温帯常緑広葉樹林などは地衣植物の豊富な環境であり今後も保全すべき森林である。

地衣植物相を隣接する広島県と比べると、中国山地のブナの

天然林や三段峡、帝釈峡などの渓谷林が比較的によく保全されている広島県が種数、個体数ともに鳥根県を上回っている。(鳥根県66属189種、広島県189属371種)しかし、鳥根県では未だ地衣植物相が十分調査されていない面もあり、今後植生との関連で調査研究が必要である。

これまで鳥根県で採集され、報告された地衣植物の種は次の通りである。

Wainio, A. (1918) ハナゴケ属 1種、安田篤 (1925) ハナゴケ属 1種、また、日本産の地衣植物のモノグラフの研究を行なった際、その種の検討標本として取り上げられた鳥根県産のものとしては 中西稔 (1966) モジゴケ科11種、生塩正義 (1968) トリハダゴケ科 6種、柏谷博之 (1975,1977) ムカデゴケ科 6種、井上正鉄 (1981, 1982, 2000) ヘリトリゴケ科3種、宮脇博巳 (1988) チャシブゴケ科 1種、原田浩 (1993) アナイボゴケ科1種、松本達雄 (2000) チブサゴケ科 3種、大村嘉人 (2001) サルオガセ属 3種などで、合計すれば37種になる。これらモノグラフで扱われた標本は殆ど1980年以前に採集されたもので、現在ではこれら種を確認することが困難な種も多い。

これらとは別に、鳥根県隠岐諸島の地衣相を調査研究した柏谷博之 (1985) の論文がある。彼は隠岐諸島で採集した約320標本をもとに「隠岐ノ島の地衣類」(Lichens of Dohgo Island, the Oki Islands) として、141種報告している。この中で彼は、コウヤハナゴケを日本で和歌山県高野山に次ぐ第2番目の産地として報告し、現在、本種は環境省の絶滅危惧種に指定されている。また、日本の南限地衣類としてのカラフトカブトゴケ、日本産として初めての報告となるPhaeophyscia sciastraや稀産種に属するナガサキトリハダゴケを報告している。この論文でリストされた種は今後鳥根県の地衣相の研究を行う上で貴重な資料となろう。

文献による報告種157種と、2001年から2003年にかけて中西稔と畑山経弘が、鳥根県内で調査した結果と中西稔がこれまで採集し標本として保存していたものを加えて、新たに24属32種を追加することができた。その結果、現時点での鳥根県産地衣植物は、66属189種となった。

今回の鳥根県のレッドデータブック改定に当たって地衣植物に関しても絶滅危惧種の選定を行った。環境省の絶滅危惧種に指定されている コウヤハナゴケの他に原生林など自然度の高い森林の樹木の樹皮に着生し、大気汚染特に酸性雨等に弱いヨコワサルオガセや これまでの調査研究では全国的に広く分布していたことが報告されていたが、最近特に森林の荒廃や伐採が目立つアカマツやクロマツに着生し、個体数を極端に減少させているトゲサルオガセとコクレサルオガセ、自然度の高い森林内でしか生育できない地衣で、鳥根県では隠岐にのみ分布しているテリハヨロイゴケ、アツバヨロイゴケを絶滅危惧種に

選定した。

この他注目すべき種として、太平洋側には豊富であるが、日本海側では極端に少ないトゲシバリ、ドテハナゴケ、*Pertusaria*

*obsorens*などがある。

各種解説の学名は原則として (Kurokawa, 2003) によった。  
(中西 稔)

## 地衣類掲載種一覧

計6種

### 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

- コウヤハナゴケ
- テリハヨロイゴケ
- アツバヨロイゴケ
- トゲサルオガセ
- ヨコワサルオガセ

5種

### 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

- コフクレサルオガセ

1種

#### 【記号説明】

- : カテゴリー区分変更なしの種 (6種)
- ↑ : 上位のカテゴリー区分への変更種 (0種)
- ↓ : 下位のカテゴリー区分への変更種 (0種)
- : 新規掲載種 (0種)
- ◇ : 情報不足からの変更種 (0種)
- ◆ : 情報不足への変更種 (0種)



チャシブゴケ目ハナゴケ科

# コウヤハナゴケ

*Cladonia koyaensis* Asahina, 1953

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価：—

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

県内では隠岐（島後）で確認されているのみである。差し迫った脅威は特に考えられないが、生育箇所が限られている。

## 【概要】

基本葉体は密生し、まれに粉芽をつける。子柄は短く、長さ1-5mm。皮層はなく軟骨質、ウスニン酸、パルバチン酸を含む。和歌山県高野山と隠岐でのみ報告されている日本固有の稀産種である。

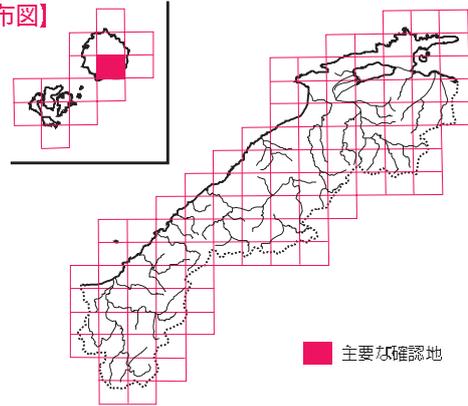
## 【県内での生育地域・生育環境】

本種は日当たりのよいスギの巨木の根元付近に着生する樹枝状地衣で、本県では神社やお寺にスギの巨木が見られるが、いずれも陰地に生育しているため、本種の生育しそうな環境は少ない。

## 【存続を脅かす原因】

本種が生育している環境は、参拝者や観光客が多く生育環境が悪化している。

## 【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎					○													

チャシブゴケ目ヨロイゴケ科

# テリハヨロイゴケ

*Sticta nylanderiana* Zahlbr., 1924

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：—

## 【選定理由】

かつては日本各地のブナの樹皮等に着生していたが、最近自然林の急激な荒廃により、個体数は減少し、本種の生育を確認することが困難になっている。本県でも例外ではない。生育環境の悪化による絶滅が危惧される。

## 【概要】

地衣体は葉状で着生基物に密着する。各裂片は4-12mmで、上面なめらかで、淡黄褐色で光沢をもつ。地衣体は薄い。下面中央部は暗色で、周辺部は淡色の細綿毛をもち、直径0.3-1mmの盃点を散在する。子器は円形で、中央部の子器盤は茶褐色である。国内各地のブナ等落葉広葉樹やオオシラビソ等針葉樹の樹皮に着生する。国外では中国やアフリカにも分布する。

## 【県内での生育地域・生育環境】

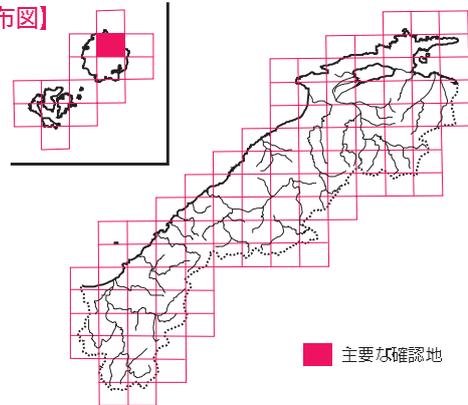
隠岐（島後）の大満寺山から報告されているのみである。中国山地沿いのブナ林等からの生育地が確認される可能性はあるが、ブナ自然林の荒廃等で絶滅が危惧される。

る。

## 【存続を脅かす原因】

自然林特にブナ林の伐採や荒廃などによる自然破壊。

## 【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎	○																	

地衣類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

チャシブゴケ目ヨロイゴケ科

# アツバヨロイゴケ

*Sticta wrightii* Tuck.,1859

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

## 【選定理由】

県内では隠岐（島後）からのみ報告されている稀産種である。最近、生育環境の悪化による絶滅が危惧される。

## 【概要】

生育地および形態ともにテリハヨロイゴケと一致するが、本種は地衣体表面光沢がなく、やや厚いことが特徴である。本種は、北海道、本州、四国に分布し、国外ではロシア、ヨーロッパ、台湾、中国に分布する。

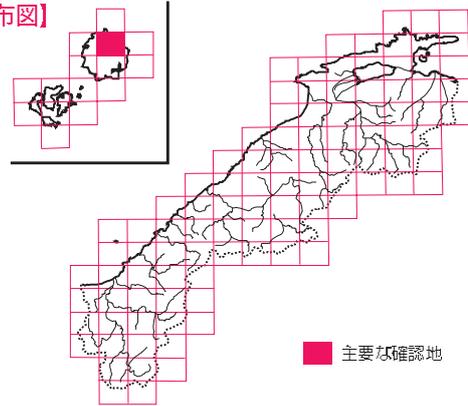
## 【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐のみに生育しているが、テリハヨロイゴケと同様中国山地ブナ林内での生育が考えられる。

## 【存続を脅かす原因】

自然林特にブナ林等の荒廃および伐採による。

## 【分布図】



地衣類

生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎	○																	

チャシブゴケ目サルオガセ科

# トゲサルオガセ

*Usnea aciculifera* Vein.,1921

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

## 【選定理由】

比較的低山域に生育するアカマツやクロマツの樹皮に生育するが、最近の県内調査では確認ができていない。

本種は日本各地における調査においてもその存在を確認することが困難になってきて絶滅が危惧されている。

## 【概要】

本種は糸状で、樹皮より垂れ下がり長さ20cmに達する。地衣体は淡黄緑色で、ほぼ二叉分岐をする。ソラリアはない。地衣体の基部は連続するか不規則な割れ目をもつ。東北地方以南に分布し、国外では台湾、中国、ネパールに分布する。

## 【県内での生育地域・生育環境】

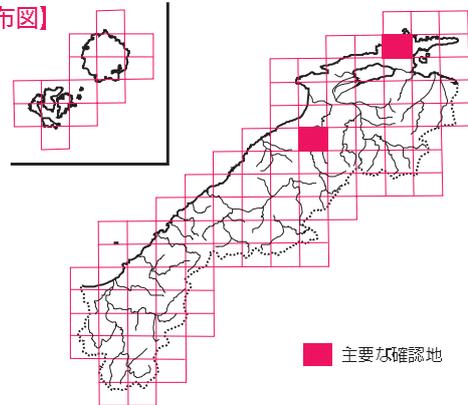
比較的低山域に生育するアカマツやクロマツの樹皮に生育し、これまで県東部及び中部の2カ所からの報告のみである。

## 【存続を脅かす原因】

酸性雨をはじめ大気汚染の影響で、アカマツやクロマツ

ツリの荒廃による。

## 【分布図】



絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○				○													

チャシブゴケ目サルオガセ科

# ヨコワサルオガセ

*Dolichousnea diffracta* (Vain.) Articus, 2004

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

## 【選定理由】

県内では1959年採集の標本から隠岐（島後）にのみ生育していたことが確認されているが、生育環境の悪化による絶滅が危惧される。

## 【概要】

体長70cmに達する糸状の地衣類で、中国地方では普通ブナ帯域に生育する。他のサルオガセ属の仲間と酷似するが、本種は地衣体表面に多数の輪状の裂溝を生じ区画されることにより区別できる。普通海風の強い島嶼部には生育しないとされている。

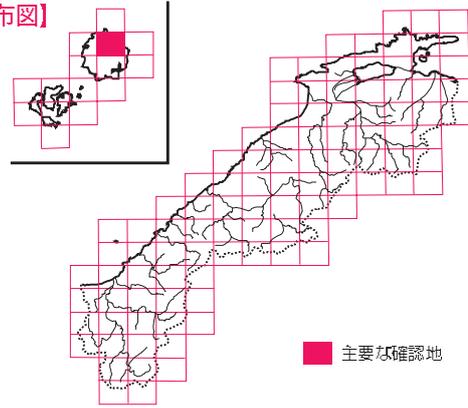
## 【県内での生育地域・生育環境】

本種は隠岐岳山の海拔340mと比較的低い地域で採集されたもので、島嶼部であること、比較的低山での生育は植物地理学上貴重である。2002年の調査では、確認できていない。本種は北海道から九州までの自然度の高いおもに冷温帯以上の森林から報告されている。国外ではロシア、台湾、中国からの報告がある。

## 【存続を脅かす原因】

大気汚染や自然林の荒廃や古木の伐採等の影響が考えられる。

## 【分布図】



地衣類

生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎	○																	

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

チャシブゴケ目サルオガセ科

# コブクレサルオガセ

*Usnea bismolliuscula* Zahlbr., 1923

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

## 【選定理由】

島根県では2カ所からのみの報告で、アカマツやクロマツ林の荒廃による生育環境の悪化により、絶滅が危惧されている。

## 【概要】

体長約15cmの糸状の地衣類で、スギやアカマツ、クロマツの樹皮に着生し、はじめは直立するが、先端部は垂れ下がる。地衣体主軸には小さな穴があり、ソラリアは点状で、その基部はくびれる。近縁種のトゲサルオガセとは主軸の小さな穴とソラリアをもつことで、区別できる。本種は東北地方以南の標高150～1,000mに分布し、国外では台湾、中国、インド、オーストラリアに分布する。

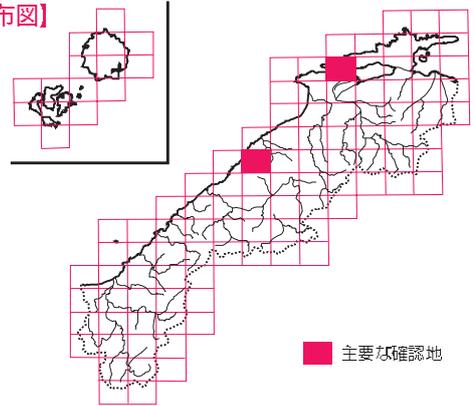
## 【県内での生育地域・生育環境】

県内では、クロマツやスギの樹皮に着生しているが、稀産である。新たな生育地が確認される可能性はあるが、生育環境の悪化によりその可能性は薄い。

## 【存続を脅かす原因】

大気汚染および酸性雨などの影響が考えられる。

## 【分布図】



地衣類

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○			○				○													

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

菌類は、一般にかび、きのこ、酵母などと呼ばれ、一般に肉眼では見ることのできない微細なものも多く、全世界で現在およそ10万種が知られている。しかし、この種数は現存する菌類の7%程度に過ぎないと推定されており、未知種があまりにも多い。われわれの目につきやすい比較的大型の子実体を形成するきのこ類（担子菌門および一部の子囊菌門）でさえ、現存すると推定されている種数の半数も知られていないのが現状である。近年いくつかの道府県できのこ類の図鑑およびレッドデータブックが発刊され後者の改訂版の作成がなされ、断片的ではあるが既知種の分布に関する情報が集積されつつある。しかしながら、きのこ類以外の菌類相についてはほとんど不明であり、継続した調査も皆無である。このため、「改訂しまねレッドデータブック（2004）」と同様、本改訂版では絶滅危惧種の選定対象をきのこ類に限定した。

島根県は、中国山地の標高約700m以上に分布するブナ・ミズナラ林、低地に分布するシイ・カシを主体とした照葉樹林、アカマツ・コナラを主とする雑木林（二次林）、海岸沿いのクロマツ林など、さまざまな森林を有する。これらの森林には種々の樹木と外生菌根を形成し、共生している多様なきのこ種が分布している。さらに、森林内の倒木、落枝、落葉などの木質性基質には腐生性のきのこが多種発生する。島根県中山間地研究センターにおいて2003年から、飯南町のきのこ類の継続的な発生調査が実施されているが、本県全域におけるきのこ類の網羅的かつ継続的な調査研究は食用きのこであるマツタケとシヨウロ以外にはなく、分布に関する情報が稀薄であることに変わりはない。

絶滅危惧種の選定は菌類相の解明と各々の種の継続的な分布調査に基づいて行われるべきであるが、前述したように、島根県の菌類相がほとんど明らかにされていない現状を踏まえ、前回の絶滅危惧種の選定は環境省が選定した絶滅危惧種（環境庁編、2000）の中から本県において分布が確認された種を中心に行った。絶滅危惧I類（CR+EN）として選定した5種は県内ブナ林において分布を確認したが、分布密度がきわめて低い種である。絶滅危惧II類（VU）として選定したツキヨタケとウス

キブナノミタケの分布密度はそれほど低くないが、ブナ林の減少とともに絶滅が危惧される種である。しかし、これら7種以外にも絶滅危惧種および準絶滅危惧種に選定すべき種は数多くあると推測される。島根県中山間地研究センター（旧島根県林業技術センター）の長年の調査によると、マツタケは1975年には島根県下30市町村において0.1kg/ha（8歳級以上のアカマツ林面積で除した値）以上の発生が認められていたのに対し、1990年にはこの値が6町に激減した。これはアカマツ林の減少と林内環境の急速な変化に起因すると考えられている。また、シヨウロはかつて全県において海岸クロマツ林に分布し、とくに大社町、出雲市から湖陵町にかけての一带、江津市および益田市の3地域が主要な分布域であったのが、1993年以降、マツクイムシ被害によるクロマツ林の減少などのために子実体の発生量が減り、シヨウロ発生地域と呼べる地域は島根半島西部のみになっている。このように両種とも発生量の減少と分布域の狭小化が認められ、このまま放置すれば絶滅の危機にさらされていると言っても過言ではない。今回、とくに分布域が狭小化しているシヨウロを準絶滅危惧（NT）として選定した。また、シヨウロと同様に海岸クロマツ林に分布が認められたホンシヨウロについても発生数が少なく、分布域が狭小であるため、本種を準絶滅危惧（NT）として選定した。さらに、環境省第4次レッドデータリスト（2012）に絶滅危惧II類（VU）として選定されたヌメリアイタケの県内分布が2004年に確認されたため、本種も準絶滅危惧種とした。また、アカマツ林にはホンシメジ、ハツタケ、カノシタなど、海岸クロマツ林にはニセシヨウロ、コツブタケ、シモロシ、アマタケ、ヌメリイグチ、チチアワタケなどの発生も認められているが、これらの種もアカマツあるいはクロマツと外生菌根を形成するため、アカマツ林およびクロマツ林の減少はこれらきのこ類の分布にも影響を与えるであろう。今後、県内全域の菌類相を明らかにするとともに、継続的な分布調査を行うことが、絶滅種、絶滅危惧種および準絶滅危惧種の客観的な選定に不可欠であるばかりでなく保護対策の基礎的資料にもなる。

（前川二太郎）

# 菌類掲載種一覧

計10種

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

・クチキトサカタケ	・ムカシオオミダレタケ	・エビタケ	5種
・ツヤナシマンネンタケ	・タマチョレイタケ		

## 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

・ツキヨタケ	・ウスキブナノミタケ	2種
--------	------------	----

## 準絶滅危惧 (NT)

○ ショウロ	○ ホンショウロ	○ スメリアイタケ	3種
--------	----------	-----------	----

### 【記号説明】

- ・：カテゴリー区分変更なしの種（7種）
- ↑：上位のカテゴリー区分への変更種（0種）
- ↓：下位のカテゴリー区分への変更種（0種）
- ：新規掲載種（3種）
- ◇：情報不足からの変更種（0種）
- ◆：情報不足への変更種（0種）

ビョウタケ目ビョウタケ科

# クチキトサカタケ

*Ascoclavulina sakaii* Otani, 1974

島根県:絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵18

島根県固有評価: -

環境省: -

## 【選定理由】

日本固有種であり、分布がまれである。県内では近年まで確実な分布の記録はなかったが、2002年に県西部において分布が確認された。本種はブナ林に分布し、ブナの倒木あるいは立ち枯れた幹の地際付近に発生するため、ブナ林の減少とともに、県内での絶滅が危惧される。

## 【概要】

子実体は塊状に発生し、後にこん棒状あるいは先端が扁平なこん棒状の突起を放射状に形成する。こん棒状の突起は径0.5-1cm、長さ通常1-3cm。全体の大きさは径が2.5-10cm、高さ2.5-7cm。表面は灰黄色から明るい灰緑色、のち淡オリーブ褐色からオリーブ褐色。子のはこん棒状から円筒形、65-100×4.5-7μm、無弁子で、頂孔はヨード反応陰性、8個の子のう胞子を含む。子のう胞子は楕円形、6-7×2.5-4μm、無色あるいはわずかに緑色を帯び、2-3個の油滴をもつ。

本州、四国、九州のブナ林に分布し、夏から秋にブナ

の倒木や立ち枯れた樹幹の地際付近に発生する。

## 【県内での生育地域・生育環境】

県西部のブナ林において分布が確認されている生育地は倒木および立ち枯れたブナが比較的多い地域で、本種子実体は倒木や立ち枯れたブナの比較的乾燥しにくい部位に発生する。

## 【存続を脅かす原因】

生育域の狭小化、基質であるブナなどの倒木の減少、生育場所の乾燥化。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○																	

キクラゲ目

# ムカシオオミダレタケ

*Elmerina holophaea* (Patouillard) Parmasto, 1984

島根県:絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵18

島根県固有評価: -

環境省: -

## 【選定理由】

国内における分布がまれである。県内では近年まで確実な分布の記録はなかったが、2002年に県西部のブナ林で分布が確認された。しかし、その後新たな産地は確認されておらず、県内での絶滅が危惧される。

## 【概要】

子実体は平たい丸山型からやや馬蹄型、無茎で、傘の側面が基質に付着し、半円形に生じる。径3-15cm、基部の厚さ1-5cm。肉質はやや多湿で寒天質を含み脆く、乳白色、淡黄褐色から淡桃褐色で、乾燥すると著しく収縮し、原型を失う。傘の上面は長さ1-5mmの羽毛状に分岐した毛に覆われ、下面は放射状から迷路状のひだとなる。担子胞子は倒卵形、無色、平滑、10-12×4-7μm、薄壁、非アミロイド性。子実体は単室担子菌類サルノコシカケ科のそれに類似するが、隔壁をもつ担子器を形成するため、多室担子菌類のシロキクラゲ目に所属する。

本種は日本固有種とされていたが、近年東南アジアおよび極東ロシアにも分布することが明らかになった。国内では北海道、本州、四国、九州のブナ林に分布し、夏から秋に発生するが、まれな種である。

## 【県内での生育地域・生育環境】

県西部のブナ林において分布が確認されている生育地は腐朽の進んだブナなどの倒木が多くある地域で、本種子実体は倒木の比較的乾燥しにくい部位に発生する。

## 【存続を脅かす原因】

生育域の狭小化、基質であるブナなどの倒木の減少、生育場所の乾燥化。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○																	

菌類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

タマチヨレイタケ目マンネンタケ科

# エビタケ

*Ganoderma tsunodae* (Yasuda) Trotter, 1925

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 18

島根県固有評価: -

環境省: -

## 【選定理由】

国内における分布が比較的まれである。県内では近年まで確実な分布の記録はなかったが、2002年に県東部および西部のブナ林で分布が確認された。しかし、その後新たな産地は確認されていない。本種はブナ林に分布し、おもにブナの腐朽材上に生育するため、ブナ林の減少とともに、県内での絶滅が危惧される。

## 【概要】

子実体は一年生で柄がない。傘は半円形、へら形または扇形で、基部が細まり、傘の側面が基質に付着する。傘の幅5-20cm、基部の厚さ1-4cm。肉質は繊維質で放射状に裂くことができるが、乾くと著しく堅くなる。肉の色は類白色。傘の上面は不規則な粒状の突起をおびて粗荒、灰白色から栗褐色。傘下面は管孔状で、白色から褐色。孔口は円形、微細で4-5個/mm。担子胞子は二重構造のマンネンタケ型であり、広卵形、20-24×14-16.5μm、淡黄色、非アミロイド性。

本種は日本固有種とされていたが、近年中国および台湾に分布することが確認されている。国内では本州、四国、九州のブナ林に分布し、比較的まれな種で、ブナなどの広葉樹の倒木、切り株、立ち枯れた幹の地際近くに発生する。

## 【県内での生育地域・生育環境】

県東部および西部のブナ林において分布が確認されている生育地は倒木および立ち枯れたブナが比較的多い地域で、本種子実体はとくに立ち枯れたブナ樹幹の基部に発生しやすい。

## 【存続を脅かす原因】

ブナ林の減少による生育域の狭小化。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○																	

タバコウロコタケ目タバコウロコタケ科

# ツヤナシマンネンタケ

*Pyrrhoderma sendaiense* (Yasuda) Imazeki, 1966

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 18

島根県固有評価: -

環境省: -

## 【選定理由】

国内における分布が比較的まれである。県内では近年まで確実な分布の記録はなかったが、2002年に県東部および西部のブナ林で分布が確認された。しかし、その後新たな産地は確認されておらず、県内での絶滅が危惧される。

## 【概要】

子実体は傘と柄からなる。傘は腎臓形、扁平から貝殻状に湾曲し、長径幅3-10cm、厚さ3-10mm。傘上面は殻皮で被われ、灰褐色から肉桂色、にぶい光沢があり、放射状にしわ状の凹凸と浅い環溝がある。肉は白色、厚さ3-8mm。傘下面は管孔状、灰白色。孔口は円形、微細で7-8個/mm。柄は通常傘の片側につき、長さ5-10cm、幅0.5-1.5cm。柄表面は傘表面と同色で、厚く強い殻皮で被われ、中実。担子胞子は類球形、無色、平滑、径5-6.5×5μm、薄壁、非アミロイド性。

本種は日本固有種とされていたが、近年中国、タイ（北

部）、インドネシアの冷温帯林から報告されている。国内では本州、四国、九州のブナ林に分布し、比較的まれな種で、ブナなどの広葉樹の倒木や切り株に発生する。

## 【県内での生育地域・生育環境】

県東部および西部のブナ林において分布が確認されている生育地は、比較的乾燥しにくい場所であり、腐朽の進んだブナなどの倒木が多く認められる。

## 【存続を脅かす原因】

生育域の狭小化、基質であるブナなどの倒木の減少、生育場所の乾燥化。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○																	



タマチヨレイタケ目タマチヨレイタケ科

# タマチヨレイタケ

*Polyporus tuberaster* Jacquin : Fries, 1821

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

## 【選定理由】

国内における分布が比較的まれである。県内では近年まで確実な分布の記録はなかったが、2002年に県中部のブナ林において1個体発生が確認された。しかし、その後新たな産地は確認されておらず、県内での絶滅が危惧される。

## 【概要】

子実体は傘と柄からなる。傘はほぼ円形、扁平で中央部がややくぼみ、漏斗状になる。傘の径は幅4-12cm、厚さ0.5-1cm。傘上面は平滑、淡黄褐色で平たく密着した黄褐色の鱗皮を被る。肉は白色、厚さ3-8mm。傘下面は管孔状、白色。孔口ははじめ円形、傘の生長にともないやや角張り放射状に長くなる。柄はほぼ中心生、長さ5-8cm、幅0.5-1cm。柄表面は黄白色から汚黄色、中実。しばしば地中に長径5-20cmの球塊状の偽菌核をつくり、子実体はこの菌核から発生するが、菌核を形成せず、朽木から発生するものもある。材の白色腐朽をお

こす。担子胞子は長楕円形、無色、平滑、10-15×4-5.5μm、薄壁、非アミロイド性。

本種は北半球の亜熱帯から温帯およびオーストラリアに分布する。国内では本州、四国、九州のブナ林に分布し、比較的まれな種で、ブナなどの広葉樹の倒木や切り株に発生する。

## 【県内での生育地域・生育環境】

県中部の三瓶山山麓のブナ林においてシデ枯枝上に発生した子実体が確認されている。

## 【存続を脅かす原因】

生育域の狭小化、基質であるシデなどの倒木の減少、生育場所の乾燥化。

生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○			○																	

菌類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

ハラタケ目ホウライタケ科

# ツキヨタケ

*Lampteromyces japonicus* (Kawamura) Singer, 1947

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵18

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

国内における分布が比較的まれである。県内では近年まで確実な分布の記録はなかったが、2002年に県西部および中部、2003年に県東部で分布が確認された。本種はおもにブナの腐朽材上に生育するため、ブナ林の減少とともに、県内での絶滅が危惧される。

### 【概要】

子実体は傘と柄からなる。傘は半円形から腎臓形、幅10-25cm。傘上面は平滑、黄橙褐色でやや濃色の小鱗片で覆われているが、成熟すると紫褐色から暗褐色となり、多少蠟状の光沢をおびる。ひだは暗下で青白く発光し、幅が広く、2cmにおよぶこともある。柄は太短く、長さ1-3cm、幅1-3cm、傘の側方につき、ひだの付け根との間に狭くて低い環状のつばのような隆起帯がある。傘の肉は白色、軟質、周辺部は薄い、柄に近い部分は厚くなる。柄の内部は通常暗紫色から黒褐色で、この点においてシイタケ、ヒラタケ、ムキタケなどの類似種か

ら区別できる。担子胞子は球形、平滑、径11.5-15μm、しばしば厚壁、非アミロイド性。

本種はロシア極東地方および朝鮮半島に分布する。国内では本州、四国、九州のブナ林に広く分布し、夏から秋にかけてブナの倒木や立ち枯れた木に発生するが、イタヤカエデなどにもしばしば生じる。

### 【県内での生育地域・生育環境】

県内全域において倒木および立ち枯れのブナが比較的多いブナ林。

### 【存続を脅かす原因】

ブナ林の減少による生育域の狭小化および生育基質の減少。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○																	

ハラタケ目クヌギタケ科

# ウスキブナノミタケ

*Mycena luteopallens* (Peck) Saccardo, 1891

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵18

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

国内における分布が比較的まれである。県内では近年まで確実な分布の記録はなかったが、2002年に県西部、2003年に県東部のブナ林で分布が確認されている。本種は落葉や腐植に埋没したブナの堅果に生育するため、ブナ林の減少とともに、県内での絶滅が危惧される。

### 【概要】

子実体は傘と柄からなる。傘は径3-15cm、初め卵形、円錐形、のちほぼ平らに開く。傘上面は平滑、黄色から淡黄色、のち淡黄土色から類白色となり、湿時条線をあらわす。ひだは直生からやや垂生、淡黄土色、やや疎。柄は細長く、長さ5-7cm、幅1mm、黄色から淡黄色、中空。柄の基部は黄白色で根状に伸び、淡黄色の軟毛をつける。担子胞子は卵形から楕円形、8.5-12×4.5-5.5μm、はじめやや粗面でアミロイド性であるが、成熟すると平滑で非アミロイド性になる。

本種は北アメリカ東部に分布する。国内では本州、四

国、九州のブナ林に分布し、比較的まれな種で、10月から11月頃に発生する。

### 【県内での生育地域・生育環境】

県東部および西部のブナ林において分布が確認されている生育地はブナなどの腐植や落葉が堆積した地域であり、本種子実体はこれらの堆積した比較的乾燥しにくい林床に埋没したブナ堅果から発生する。

### 【存続を脅かす原因】

生育域の狭小化、基質であるブナの減少、生育場所の乾燥化。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○		○																	

イグチ目シヨウロ科

# シヨウロ

*Rhizopogon roseolus* (Corda) Th. Fries, 1854

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵18

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

国内に広く分布が認められているが、各分布域が狭小である。県内ではおもに海岸クロマツ林に分布が認められているが、クロマツ林の減少による分布域の狭小化、さらに本種は優秀な食用きのこであるため、採取により子実体発生量が年々減少しており、県内での絶滅が危惧される。

### 【概要】

子実体は地中あるいは半地中に生じ、南西諸島から類球形で、径0.5-3.5cm。表面は白色から淡紫褐色を呈し、傷付けると淡赤紫色に変色する。内部は幼時白色で芳香臭があるが、

あるが、胞子の形成とともに徐々に黄土色からオリーブ色となり、成熟すると不快臭がある。国内ではおもに海岸クロマツ林に分布し、子実体は秋から翌年の春にかけてクロマツ樹下に発生する。食用。

### 【県内での生育地域・生育環境】

県東部では島根半島西岸部、県西部では江の川および高津川河口で、いずれも比較的広域に生育した海岸クロマツ林において分布が確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

生育域の狭小化、共生関係にあるクロマツ(林)の衰退、採取圧。

生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	○	○																		○	

イグチ目シヨウロ科

# ホンシヨウロ

*Rhizopogon luteolus* Fries, 1817

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：情報不足 (DD)

### 【選定理由】

国内では本州以南においてまれに分布が認められているが、各々の分布地における子実体発生域は狭小である。県内では海岸クロマツ林の限られた地域にのみ分布が確認されているが、クロマツ林の衰退により、県内での絶滅が危惧される。

### 【概要】

子実体は地中あるいは半地中に生じ、南西諸島から類球形で、径1-3cm。表面は白色から淡黄褐色を呈し、傷付けても淡赤紫色に変色しないが、水酸化カリウム水

溶液で赤紫色に変色する。内部は淡黄色から黄土色を呈し、不快臭がある。国内ではおもに海岸クロマツ林に分布するが、分布域は限られている。子実体は秋から翌年の春にかけてクロマツの樹下に発生する。

### 【県内での生育地域・生育環境】

県東部の海岸に分布するクロマツ林の限られた地域においてのみ分布が確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

生育域の狭小化、共生関係にあるクロマツ(林)の衰退。

生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○																				○	

ベニタケ目ニンギョウタケモドキ科

# ヌメリアイタケ

*Albatrellus yasudae* (Lloyd) Pouzar, 1972

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

日本固有種であり、環境省の第4次レッドデータリスト(2012)では絶滅危惧Ⅱとして選定されている。北海道、本州、四国においてまれに分布が確認されている。県内では限られた地域においてのみ分布する。

### 【概要】

子実体は一年生で、傘と柄からなる。傘は柄に長く垂生し、丸山型で後に平らに開き、ほぼ円形で、径2-8cm。傘表面は濃青藍色を呈し、粘性を帯びるが、乾くと光沢を呈す。傘裏面は白色で、管孔状。柄は白色、中心

生から偏心生で、長さ3-6cm、径5-12mm。肉は白色で、やや苦みがある。

国内ではマツを含む雑木林の地上に発生する。

### 【県内での生育地域・生育環境】

県東部飯南町のアカマツと広葉樹が混交する林地においてのみ本種子実体の発生が確認されているが、他の地域の分布状況については不明である。

### 【存続を脅かす原因】

生育域の狭小化、共生関係にあるアカマツ(林)の衰退。

生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○																	

菌

類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

菌類

絕滅  
野生絕滅

絕滅危懼Ⅰ類

絕滅危懼Ⅱ類

準絕滅危懼

情報不足